

1 9 9 1

MIMA Junior Chamber, Inc.

10th Anniversary



我、一粒の麦たらん——

一粒の麦が地に落ちて死ななければ

それはただ一粒のままである

しかし、もし死んだなら

豊かに実を結ぶようになるだろう

Jesus Christ

JC三原則

TRAINING (修練)
SERVICE (奉仕)
FRIENDSHIP (友情)

JC宣言

変革の能動者たらんとする青年として、個人の、真に豊かな生活の実現を通して、自立した、快適で活力ある地域を創造し、自由と公正を保障する国家を基盤として、世界の平和と繁栄に貢献し、地球上のすべての人と、共に生きることを誓う

綱領

われわれJAYCEEは、社会的・国家的・国際的な責任を自覚し志を同じうする者、相集い、力を合わせ、青年としての英知と勇気と情熱をもって、明るい豊かな社会を築き上げよう

The Creed of
Jaycees International

We Believe :
That faith in God gives meaning and purpose to human life;
That the brotherhood of man transcends the sovereignty of nations;
That economic justice can best be won by free men through free enterprise;
That government should be of laws rather than of men;
That earth's great treasure lies in human personality ;and
That service to humanity is the best work of life.

10周年記念事業

記念式典
 登録受付 17:00
 オープニングスライド 17:30
 開会宣言 17:35
 国家並びにJCソング斉唱
 JCIクリード朗読
 JC宣言文朗読
 来賓紹介
 理事長挨拶
 来賓祝辞
 祝電披露
 歴代理事長登壇
 スポンサーJC感謝状目録
 スポンサーJC理事長挨拶
 実行委員会謝辞
 閉会宣言 18:30
 記念式典会場
 穴吹町農村環境改善センター
 懇親会 19:00~21:00
 懇親会会場
 ドライブインつどい

美馬リバーサイドフェスティバル
 IN・吉野川
 7月6日(土)・7日(日)
 会場
 船町中島潜水橋北側河川敷一帯

講演会
 7月7日(日)
 10:30~12:00
 講師：平島祥男氏
 世界の河と民族の興亡
 13:00~14:30
 講師：山本コータロー氏
 コータローの地球学校
 地球と仲良くするにはどうしたら良いか

川のフォーラム
 15:00~
 日本三大河川と全国の吉野川
 についてのシンポジウム
 会場
 船町福祉センター



④小松島青年会議所より
 10周年記念のプレゼントとして
 花水木の苗木をいただきました。
 毎年春になると、グリーンヒルあなぶきの
 の庭に、美しい花を咲かせて、私達の
 目を爽ませてくれる事でしょう。
 本当にありがとうございます。
 ・平成三年四月穴吹町グリーンヒル
 あなぶきにて記念の植樹

— 入会認承認 —



入会認承認

第六九二号

美馬青年会議所

日本青年会議所正会員
 として貴青年会議所の
 入会を認承認します

一九八一年十二月五日

社団法人日本青年会議所

会頭 森 輝彦

C O N T E N T S

Page. 1	ご挨拶 旧美馬青年会議所理事長 宇民俊博
Page. 2	祝辞 徳島県知事 三木申三
Page. 3	祝辞 美馬郡町村会会長 佐藤宏史
Page. 3	祝辞 脇町ロータリークラブ会長 国見良人
Page. 4	祝辞 脇町ライオンズクラブ会長 真鍋 仁
Page. 4	祝辞 半田ライオンズクラブ会長 佐藤憲一
Page. 5	祝辞 旧日本青年会議所会頭 川島偉良
Page. 6	祝辞 旧日本青年会議所四国地区協議会会長 原 秀樹
Page. 6	祝辞 旧日本青年会議所徳島ブロック協議会会長 辻 一
Page. 7	祝辞 旧阿波池田青年会議所理事長 池尻英昭
Page. 7	お礼のこぼ 旧美馬青年会議所10周年実行委員会委員長 小田一夫
Page. 9 & 10	10周年の歩み 旧美馬青年会議所1981.82年度初代理事長 山内昭典
Page. 11 & 12	10周年の歩み 旧美馬青年会議所1983年度第2代理事長 藤見親義
Page. 13 & 14	10周年の歩み 旧美馬青年会議所1984年度第3代理事長 浪越繁男
Page. 15 & 16	10周年の歩み 旧美馬青年会議所1985年度第4代理事長 脇川弘志
Page. 17 & 18	10周年の歩み 旧美馬青年会議所1986年度第5代理事長 森 廣一
Page. 19 & 20	10周年の歩み 旧美馬青年会議所1987年度第6代理事長 森西博昭
Page. 21 & 22	10周年の歩み 旧美馬青年会議所1988年度第7代理事長 原 政義
Page. 23 & 24	10周年の歩み 旧美馬青年会議所1989年度第8代理事長 西野善久
Page. 25 & 26	10周年の歩み 旧美馬青年会議所1990年度第9代理事長 佐藤順二
Page. 27	We are the River Family 平島祥男
Page. 28	We are the River Family 前田武志
Page. 29 & 30	「美馬の過去・現在・未来」
Page. 31 & 32	旧美馬青年会議所1991年度現役メンバー名簿
Page. 33	旧美馬青年会議所1991年度シニアクラブ名簿



(株)美馬青年会議所
1991年度理事長

宇民俊博

—— ご あ い さ つ ——

我々(株)美馬青年会議所のメンバーの住む徳島県美馬郡は、徳島県の主要国道192号線のやや中心に位置し、四国山地、讃岐山脈に囲まれ東西に四国三郎吉野川が流れる山の幸、川の幸の豊富な自然美豊かな町です。

近隣には徳島市を初め、池田町、川之江市又高松市と大きな町が栄え、経済観光文化の流通接点として大きな役割を背負っております。

このような地域性の中でスポンサーJ Cである(株)阿波池田青年会議所の多大なる協力のもと1981(昭和56)年全国で692番目のJ Cとして産声をあげ本年創立10周年を迎える運びとなりました。これもひとえに関係諸団体又地域の皆様そして諸先輩方のおかげであると感じ厚く御礼申し上げます。

ふり返りますとこの10年間様々な出来事がありました。中でも当初より取りくんでおります「美馬ちびっこ相撲大会」は毎年郡内でも好評であり、年々すばらしい大会となっております。今年も郡内の小学校より多数の参加と東祖谷山村の析ノ瀬小学校の協力を得て盛大に終らすことが出来ました。又、中国音楽の演奏会は8年間続いており、国境を越え交流を図ってまいりました。これを21世紀へ向け増々飛躍するよう頑張っていく所存でございます。最後になりましたが、10周年の為に協力を頂きました皆様、並びに会員各位又会員の家族の方々へ深く感謝し厚く御礼申し上げます。と共に増々のご協力を宜しくお願い致します。

10th
anniversaries
message



徳島県知事

三木 申三

祝 辞

美馬青年会議所の皆様、創立10周年本当におめでとうございます。私が県知事に初当選し、県政を担当するようになったのは、貴会議所の創立と同じ昭和56年でございます。

当時は、日本経済が低成長基調へ移行の時であり、国、地方とも行財政改革に取り組むなど社会経済情勢は、非常に厳しいものでありました。

このような中で、私は、1980年代の県政運営の基本方針として「徳島県総合福祉計画」を策定し、県民の皆様と共にその実現に向けて、懸命に取り組んで参りました。

計画を作り、着実に実現して行くためには、その地域のことを真剣に考え、よくしていこうという情熱と行動力をもった地域の人々が不可欠であります。

美馬青年会議所の皆様におかれては、“霊峰剣山と四国三郎吉野川”の間に広がる「美しい故郷美馬」をテーマに創立以来この10年間、美馬地域を豊かで明るい社会にしようと、情熱を持って地域づくりに取り組まれてこられました。このことに対し、深く敬意を表するとともに心より感謝申し上げます。

今年20世紀締めくくりの10年がスタートした年であります。この10年間には明石海峡大橋、関西国際空港さらには四国縦貫自動車道の完成が見込まれるなど、本県を取り巻く環境は大きく変化しようとしています。

私は、今後10年の県政の在り方が21世紀の郷土の姿を大きく左右するとの認識の下に、広く県民の皆様方からご意見をお伺いしながら「健康県徳島の創生」を基本理念とした「徳島県総合計画2001」と「四国の玄関」としての地位を確立することを目標とした「3000日の徳島戦略」を策定したところでありますが、その実現のためには県民一人ひとりのエネルギーをいかに結集するかが鍵であると考えております。

こうした中、美馬青年会議所におかれては、21世紀を見据えた“新しい町づくり、故郷づくり”を目指して10周年記念事業「美馬リバーサイドフェスティバル in 吉野川」を計画されているとお伺いし、誠に心強く存じているところであります。

最後になりましたが、美馬青年会議所の今後ますますの御活躍、御発展を心からお祈り申し上げます。

創立10周年を祝して



美馬町村会
会長

佐藤 宏史

このたび、美馬青年会議所が創立10周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

昭和57年9月に創立されて以来、歴代の理事長さんを初め会員皆様方がお互いの友情を深められるとともに研鑽を重ねられ、美馬地域において着実にその成果を上げてこられ、明るく豊かな社会づくりに大きく貢献されてこられました。会員皆様方のこれまでの弛まぬご努力に深甚なる敬意を表する次第であります。

さて、この10年を振り返ってみますと、皆様方は急速に進む次代の流れを敏感に受け止めながら活気に満ちたよりよい社会の建設を目指し、実に幅広く社会・政治・経済のあらゆる分野でさまざまな事業活動を展開してこられました。なかでも、美馬ちびっ子相撲大会の開催は本年で実に10回を数え、郡内の小学生に夢と希望を与えるなくてはならない年間行事の一つとなりました。さらに、今回の『美馬リバーサイドフェスティバル in 吉野川』の開催は過疎化の進む美馬地域に大きなインパクトを与えたものと確信しております。

今、美馬地域においては来るべき21世紀を展望しつつ、豊かな自然を活かした新しいまちづくりに取り組んでおります。

どうか、美馬青年会議所におかれましては激動の時代に対応され、英知と勇気と情熱をもって新しい美馬のまちづくりのため、今後とも大いにご活躍されることを期待いたします。

最後になりましたが、このたびの創立10周年を契機として美馬青年会議所のますますのご発展と会員皆様方のご健勝を祈念いたしましてお祝いの言葉といたします。

10th

anniversaries

message

祝 辞



協町ロータリークラブ
会長

国見 良人

「美しい故郷 美馬」をテーマに発足した美馬青年会議所が創立10周年を迎えられたこと、心からお慶び申し上げます。

我がクラブには、あなたの会からたくさんの先輩や卒業生が入会され、現在はクラブの中堅として活躍されています。昨年は創立25周年を迎えることが出来ました。これからもいつまでも友好と信頼の関係が続きますようお願いしています。

我々も同じ地域の中で奉仕の心を持った団体ですが、近頃活動も段々とマンネリ化してしまったり、おざなりなテーマで進んで行くきらいがあります。ことしの国際ロータリーのテーマは「自分を越えた眼を」です。これは今までやってきたことをもう一度ちがった眼で見て、そして心の眼で見なおそうと言うことです。

私はこれにもうひとつ「夢とロマン」を加えたいのです。

穴吹町が幻の大蛇にちなんで「大蛇のすべり台」を製作にとりかかりました。162メートルと聞いています。壮大で、そして長い長いロマンだと思います。

西武の清原選手が開幕アーチ以後極端なスランプに落ちこんでいます。彼ならきっと自分自身に打ち勝って、近い日に『ミスタープロ野球』としての夢を我々に運んでくれるでしょう。

美馬青年会議所のみなさんがいつまでも「夢とロマン」を持ち続け、ことしのテーマ「美馬の乱」を故郷の街に呼び起こし、新しい街づくりのため未来に向かって、限りなく前進して行くことを心からご期待申し上げます。

10th

anniversaries

message



協町ライオンズクラブ
会 長

真 鍋 仁

10th
anniversaries
message _____

祝 辞

美馬青年会議所の輝かしい結成10周年を心からお慶び申し上げます。
歴代理事長はじめ会員皆様方が、明るい豊かな社会の実現を理念に一致団結たゆまぬ努力を重ねられ、定着したちびっこ相撲大会をはじめ幅広い活動を通じて地域に貢献されておりますことに深く敬意を表するものであります。21世紀を間近にして、発達した科学、豊かな物質に人間本来の姿。自然が脅かされている今、貴青年会議所では、霊峰剣山と四国三郎吉野川に広がる美しい故郷づくりをテーマに“新しい町づくり故郷づくり”に取り組んでおられることは誠に意義深くご同慶の至りであります。
ここにつつしんで結成10周年をお祝いするとともに、美馬青年会議所の限りなき前進と皆様方のご健勝を祈念申し上げお祝いのことばといたします。



半田ライオンズクラブ
会 長

佐 藤 憲 一

10th
anniversaries
message _____

祝 辞

美馬青年会議所十周年記念式典が盛大に開催されます事、心よりお慶び申し上げます。
21世紀に向かってこの10年間美馬郡は関西国際空港、明石海峡大橋の完成、そして近くは高松空港、四国縦貫道の完成等、社会状況の変革は新しい時代に向って目の離せない主要な時期を迎えております。
一方地方を取りまく私達の環境は高齢化社会の到来、過疎の進行と郡内どの町村もその対応に苦慮致しておるのも現実でございます。
今後この様なむつかしい時代に青年会議所の若い行動力のある取組みが注目される所以です。
皆さんの地域の活性化、心の通じ合う豊かな地域づくりに力強い活動を期待し、皆様のご健勝と益々のご発展をお祈りしてお祝いの言葉といたします。



(株)日本青年会議所
会 頭

川 島 偉 良

祝 辞

社団法人美馬青年会議所が、1981年全国692番目の青年会議所として設立され、本年めでたく10周年を迎えられることを心よりお慶び申し上げます。

「湾岸戦争の終結」「ソビエト国家元首としてゴルバチョフ大統領初来日」。21世紀へのプリディケイドとしてスタートした1991年は、正に激動と変革への時代の幕開けとなりました。

地球はますますボーダレス社会となり、経済、政治、環境問題等すべてがリンクし、特定の国家や地域だけの問題にとどまることなく、地球規模的な問題となってきています。

本年、私が提唱する「ふるさと地球 (EARTH OUR HOME)」という運動は、武器による平和運動でなく、共に生き、お互いに恵むという共生互恵の平和を時間をかけても作り上げ、地球上に地球市民という冷戦時代の後の本当の新秩序を創造する運動なのです。

また(株)日本青年会議所では、「1 L O M 1 物語」を提唱させていただきました。これは、それぞれが個性を持った、夢のあるまちの未来の物語を創造する運動です。そのLOMの物語ではなく、そのLOMのある「まちづくりの物語」なのです。

貴青年会議所が10年にわたり、まちづくりに取り組まれた数々の事業は、市民になくはならないものとなりました。これは全国6万余千名の仲間にとって、大きな誇りであり、また後に続く者にとって心強い励みとなっております。さらに市民と手を取り、「新しい町づくり・故郷づくり」に邁進する決意を承っております。正に「美馬の乱」期待しております。10年間の歴史の中で培われてきた貴青年会議所の素養を益々育み、21世紀に向けて素敵な大輪の花を地域に咲かせることを願っております。

創立10周年を迎えられた貴青年会議所が、次代を担う青年の使命として、歴史の創造的変革への挑戦をされますことと、全国752青年会議所のリーダーとして、益々御発展、御活躍されますことを、心からお祈り致しまして、創立10周年へのお祝いの言葉と致します。

10th
anniversaries
message



(社) 日本青年会議所
四国地区協議会会長

原 秀 樹

10th
anniversaries
message

祝 辞

(社)美馬青年会議所創立10周年、おめでとうございます。(社)日本青年会議所四国地区協議会2,400余名を代表致しまして、心よりお慶び申し上げます。

昭和56年阿波池田青年会議所をスポンサーとして灯された貴青年会議所の灯が、幾多の試練を乗り越えて10年絶える事なく、より大きな炎となって燃え続けたことは、多くの先輩のご努力と、「ちびっこ相撲」等に代表される美馬青年会議所の活動そのものが、地域に根ざした「まちづくり」に貢献してきた賜物であると、深い敬意を表します。

本年(社)日本青年会議所も創立40周年を迎えます。その間青年会議所運動は、常に運動の本質を問いつつながら拡大・発展してまいりました。それはまさに挫折と模索の中で、純粋でひたむきな青年達が、その共感の輪を広げて行った40年であったと言えるでしょう。

今日、我々は数々の運動を通じて、高い評価と地域の担い手としての信頼を得ていますが、私達を取り巻く環境は決して安閑としたものではなく高度情報化・技術革新の進む一方で、地域間格差の増大・産業構造の変革・高齢化問題・地球環境の問題等、重要な課題が山積した環境の中に位置しています。この様な不透明・且つ複雑化した状況の中で、これからの青年会議所運動は、会員各々が責任ある世代の一員であるということを再確認し、現状をしっかりと見据え、青年としての勇気と情熱をもって、地域の住民と共に手を携えて運動展開して行くべきだと確信しています。(社)美馬青年会議所の皆様におかれましても、10周年という記念すべき本年を契機として、新しい時代の新しい認識に立って、更に地域社会の信頼に応えるべく、大きく翔たかれんことをご祈念申し上げ、お祝の言葉とさせていただきます。

祝 辞

1991年度徳島ブロック協議会会長として書かせていただきます。

(社)美馬青年会議所創立10周年を迎えられましたこと、心よりお喜び申し上げますと共にこの喜びを分かちあえる機会を与えて戴き感謝致しております。

(社)美馬青年会議所は、昭和56年9月、(社)阿波池田青年会議所のスポンサーにより、青年会議所活動の火を燈され、10年の歴史の中で多くの諸先輩をはじめ、会員諸兄の英知と勇気と情熱を持って明るい豊かな美馬の構築を目指し、取り組まれてまいりました数々の事業に対し深く敬意を表する次第です。

今や、当たり前前のことを、当たり前前のこととして実行することが困難な世の中で、我々JCMンが、地域で、社会ですることに、人はほとんど注意しないかもしれないし、又、永く記憶しないかも知れません。しかし我らJCMン自身が、自らの「郷土・徳島」に何をしたのかを忘れることはあり得ません。英知・勇気・情熱を持って徳島に尽くそうとする行動に対して「徳島」自身が前進の気概を高めねばならない時代がきたのです。

最後にあたり、(社)美馬青年会議所メンバーの今後益々のご発展とご活躍を期待し、徳島ブロック協議会へのご協力を感謝し、お祝いの挨拶と致します。



(社) 日本青年会議所
徳島ブロック協議会会長

辻 一

10th
anniversaries
message



(社)阿波池田青年会議所
理事長

池尻英昭

10th
anniversaries
message

祝 辞

(社)美馬青年会議所創立10周年おめでとうございます。当LOM10周年の折、現在OBとなっており、我先輩各位と共に設立のお手伝いをさせて頂いて以来、早や10年の歳月が流れたのかと思うと感慨もひとしおでございます。その間、地域に根ざした活動を展開されておられる事、誇りに思い敬意を表する次第でございます。貴LOMと(社)鴨島青年会議所、そして当LOMには、二つの共通点があります。一つは海にかこまれた四国地区32LOMの中にあつて、この3LOMのみが、海に面していない事、そしてもう一つは、3LOMが四国三郎、吉野川と言う共通の財産を持ち、それに因んだマチ創りを志していると言う点であります。その表われとして、(社)鴨島青年会議所では昨年よりの「アドベンチャーイン吉野川」を当LOMでは、6年前より「阿波池田へそっ湖祭り」をそして貴LOMでは今年から「美馬リバーサイドフェスティバルin吉野川」と言うマチ創りのイベントを行なっています。この世の生きとし生ける者の生命の源である水、そして豊かな自然を守りながら、明るい豊かな地域創りの為、行動する事、それが我々JCMの今後取るべき方向であると確信する者の一人として、この一致は頼もしい限りであります。地域地域の独自性と良い所を大いにアピールするマチ創りの為互いに切磋琢磨しながら、さらに友情を深めて頂ければ幸いに存じます。最後になりましたが、「天馬大空を駆ける」の言葉通り、大いに暴れて頂き、美馬の地を良い意味で乱して頂くことを、お願いしまして簡単ですが御祝の言葉とさせていただきます。



(社)美馬青年会議所
10周年実行委員会委員長

小田 一夫

10th
anniversaries
message

お 礼 の 言 葉

霊峰剣山と四国三郎吉野川の中流域に広がる美しいふるさと美馬の地に1981年9月6日阿波池田青年会議所スポンサーのもとJCMの火が灯されて以来10年、やっと一つの節目を迎えることが出来ましたことは美馬青年会議所会員一同の大きな喜びであります。

創立以来、「明るい豊かな社会」の実現をめざす先輩諸兄のご苦勞とご活躍は、地域社会においても理解され少なからぬ評価をいただいております。私たちの誇りであり、今後この業績を継承しながら、実績を積み重ねていく所存でございます。思い起こせば10年前「はぐくもう英知と友情、手をつなごう新しい美馬」のスローガンの元「美馬は一つ」の合言葉によりJCM運動を推し進めて来ました。本年「美馬の乱」を掲げ、10周年記念事業として「美馬リバーサイドフェスティバルin吉野川」の実行委員会を組織し、「夢とロマンをのせて歴史と文化を生む命の水」をテーマに

①霊峰剣山と四国三郎吉野川の間に広がる美しい故郷づくり

②美馬郡内に1,000人収容出来る施設

③心のうらおいの場所としての総合運動公園

の3点を提言し、これに向けて、今後運動を推進してまいります。

最後になりましたが、多くの方々の温かい御支援と御指導をいただきましておかげをもちまして、今日を迎えることが出来ましたことを厚く御礼申し上げます。

美馬青年会議所10周年の歩み



(社) 美馬青年会議所
1981・82年度初代理事長

山内昭典

10th
anniversaries
message

——— ありがとう 十周年 ———

10周年おめでとう。今日の若々しく活力のある美馬J.C.の飛躍に礎の一粒を担った、私には感涙新たなるものがあります。心からありがとう!!と大きな声で叫びたい気持ちです。美しいふるさと美馬!!をテーマとして郡内の若者50名が、(社)池田青年会議所のスポンサーによって「美馬は一つ、お互い頑張る」で郡内の活性化に少しでも寄与しようじゃないかと、手を繋ぎ産声を上げたのは、1981年9月6日でした。在籍は僅か2年と4ヶ月(理事長1年4ヶ月、直前1年)J.C.マンとして、未熟なまま卒業した私では在りますが、思い出は多く人生に夢膨らんだ時期でした。今この、10周年記念式典を迎えるにあたり粗そうがあつてはと、式典、祝宴、記念誌、PR等、日夜準備に燃えられた皆さんに思い出が重なってまいります。1981年12月5日東京に於いて、常任理事会の席上、日本で692番目の認承番号を頂き、正式に日本青年会議所のLOMとして発足した事が、又加入申請書作成の為池田J.C.の教示を得ながら連日連夜24時を過ぎた事、ブロック会長、地区長の署名捺印に急を要し1日で無理な走行をし、勇躍1981年10月3日、鹿児島での全国大会の拡大委員会の審査を受けるも、誤字、印刷ミス指摘され押し問答も及ばず、再審査となり1ヶ月後の京都会議に於いて無事加入が認められた時の喜び、そして12月5日認承証を手にした時の感激、そして翌12月6日のファミリー例会の席上メンバー各位と、美味しい食事を共にしたのですが、それからの4ヶ月がもっと大変でした。今回の10周年記念式典での皆様同様、会社に、家庭に理解を求め、1982年4月4日の認承証伝達式を迎えたのです。全国から600余名の「J.C.の友。祝賀の許、徳島県知事を始めとして、政経各界からの美馬J.C.誕生の祝詞を賜った時、燃え尽きんとした私にとって一生忘れる事のない喜びの一日となりました。「節あればこそ竹強し」。大きく育ったこの10周年記念を節目とし、燃える機会を多く持って喜びを満喫し、青少年の育成に、又地域社会の発展の為、新たな前進を御期待申し上げまして、御祝の言葉といたします。

M Y

O L D



1981年・82年度
主な事業概要

- 1981年12月5日 認承伝達
- 12月6日 ファミリー例会
- 12月10日 第1回献血運動
- 1982年4月4日 認承伝達式
- 8月12日 第2回献血運動
- 9月26日 徳島ブロックソフトボール大会
- 10月24日 第1回ちびっ子相撲大会
- 11月1日 美馬J.C.サミット委員会
- 第1回桜いっぱい運動(竜王山への植樹500本)

(社)美馬青年会議所 1981, 82年度所信表明

我々は「英知と勇氣と情熱」をもって社会につくします

思えば昨年12月に(社)阿波池田青年会議所の呼びかけにより、宇民俊博君、前田利彦君の活発的な働きで発起人及び会員を募り、幾度となく発起人会を開き、説明会を重ねた結果、全員の熱意が最高に盛り上った時期、昭和56年9月6日に美馬青年会議所の創立総会を開催する事が出来ました。それには皆様1人1人の骨身を惜しまない協力の賜ものと感謝しております。又私も創立総会におきまして初代の理事長の大役を引受けましたが、未熟の私が責任をもってこの重責を遂行する事が出来るか不安が一杯です。しかし一度大役を引受けました以上、一大決心をして美馬青年会議所の為に粉骨砕身全力をもって働きたいと思ひます。

又先日総会の席上におきまして温かいお慶びの言葉、励ましの言葉、期待の言葉を頂戴致しました。内藤県議、脇町長、穴吹町長、町村会長、脇町穴吹両商工会長、脇町ライオンズクラブ、脇町ロータリークラブの会長、又四国地区内より竹内地区長、筒井ブロック長、池田J.C真鍋理事長、その他祝電を頂きました方々を初めスポンサークラブであります池田青年会議所の御指導を賜った人々に感謝し報いる為にも我々美馬青年会議所の会員の皆さん、今まで以上の熱意と行動力をもって地域社会の為に頑張っていかなければなりません。

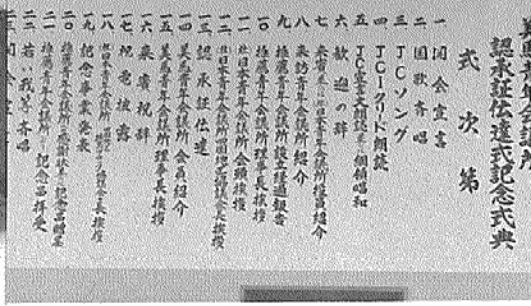
来る10月3日鹿児島市で開催される全国大会において認証の書類答申が行なわれます。その書類につきましても、総務委員会の各委員さんが自分の仕事及び家庭を投げ捨ててまで、一生懸命の努力により仕上げる事が出来ました。又、広報委員会におきましては、この第1回目の例報剣山(美馬ニュース)の発刊と次々情熱を燃やし続けております。どうかこの意欲と熱意を持続し、来春の認証伝達式に向かって突き進んで行くではありませんか。私自身も皆様の意欲に負けない様、美馬青年会議所が他の青年会議所に負けない様勉強し努力してまいりたいと思ひます。それには会員全員の和を計り、一致団結すれば何事もなし得ない事はないと思ひます。どうか宣言文通り『剣山と吉野川の間に広がるこの美しい美馬』を、過疎から守り、青少年を非行から守り育成し、犯罪をなくし明るい街造りを目的として、他の種々の団体等と手を結び合っていきたいと思ひます。その中には我々と共に喜びを、又苦勞を分かちあう「誠心」に燃える若者が美馬郡内にはたくさんいるはずで。その人達にも青年会議所とは何かを知ってもらい、仲間となって戴き「英知と勇氣と情熱」をもって、社会地域の為に広く活動して、県内にいや四国に、美馬青年会議所ここに有りと言われる様に会員の皆様の高一層の御協力と御鞭撻をお願い致しまして私の挨拶といたします。

夢

1982

F R A M E S H O T

祝 美馬青年会議所記念式典



美馬青年会議所ファミリー



◎理事

国際青年会議所
日本青年会議所
日本J.C四国地区協議会
徳島ブロック協議会

総 会

監 事 平野直彦
宇民俊博

理 事 会

理事長◎山内昭典

副理事長

◎前田利彦

◎中川元佑

◎井上 実

◎井川英秋

総 務(女)

(女)◎脇川 弘志
(女)◎藤山 泰章
(女)◎森 廣一
山口 賢二
森西 博昭
岩本 堅次

経 営 開 発(女)

(女)◎西野 普久
(女)◎笠井 真一
吉川 光明
浪越 繁男
川村 政義
笠井 敏
三笠 忠克
木村 常之

広 報(女)

(女)◎植田 順勇
(女)◎北岡 秀二
(女)◎永井 明之
西條 啓司
三宅 福島
高松 清
高砂 博久
真鍋 昭洋
辻 健司
田岡 孝
赤松

社 会 開 発(女)

(女)◎前田 豊太郎
(女)◎樫本 英治
(女)◎宇山 茂徳
森 明義
藤見 靖
原 親義
幸田 政義
和雄

指 導 力 開 発(女)

(女)◎正木 一明
(女)◎柴田 弘一
金崎 徳吉
一井 真人
田村 進
小田 一夫
伊藤 憲昭

会 員 開 発(女)

(女)◎藤田 圭造
(女)◎藤林 健久
白川 祥司
竹内 賢三
富永 哲夫
井上 芳治
藤川 計助

1981, 82年度組織図



(株) 美馬青年会議所
1983年度第2代理事長

藤 見 親 義

祝 辞

盛夏の陽ざし蹴しき折、(株)美馬青年会議所設立10周年を迎えるに当り、OBとして、地元住民の一人として心よりお慶び申し上げます。

日本はもとより世界の社会情勢不安の中、やはり「足元をみる。」「足元から。」という意味から、地域の中での活動が重要視されています。しかしまわりをみれば、メディアなどにより幅広い諸団体の活動状況が力強く印されています。町おこし、町づくり等そのような中にあり、(株)美馬青年会議所も、次々と新しいスローガンを掲げ、地道に歩まれている姿を見て安心し、心強く思っております。

我々の時代、設立当初時になりますが、現在の様な穏やかな話し合いの場は少なく、荒々しい言葉や意見も飛び交い、夜遅くまで時間を費やしたものでした。その中で生まれた行事としては、竜王山の桜いっぱい運動、小学生の標語や絵・イラストを自由にもり込んだうちわ作りの交通安全フェスティバル、深く考え真剣に取り組んだ中国問題講演会開会など、色々と思い出されます。

個性が少なくなったと言われる昨今、一つの団体として前向きな活動も多々難題を抱える場面もあるでしょうが、若い力、柔軟な考えを持った若人の特権をフルに活かし、(株)美馬青年会議所ならではの活躍を期待して、お祝いの言葉とさせていただきます。

10th anniversaries message

M Y

O L D



1983年度 主な事業概要

- 3月11日 中国問題講演会
- 3月20日 第2回桜いっぱい運動(美馬JC統一事業)
- 5月8日 美馬JC親睦ソフトボール大会
- 5月9日 交通安全フェスティバル
- 18日
 - 第1回青少年問題意識調査
 - 新入会員オリエンテーション(株)日本青年会議所会頭来徳
- 8月23日 四国地区統一事業「幸福の翼」
- 24日
- 10月30日 第2回美馬ちびっ子相撲大会
- 12月11日 クリスマスパティー

(社)美馬青年会議所 1983年度所信表明

「魅力ある地域社会を創るためにわれわれは何をなすべきか」

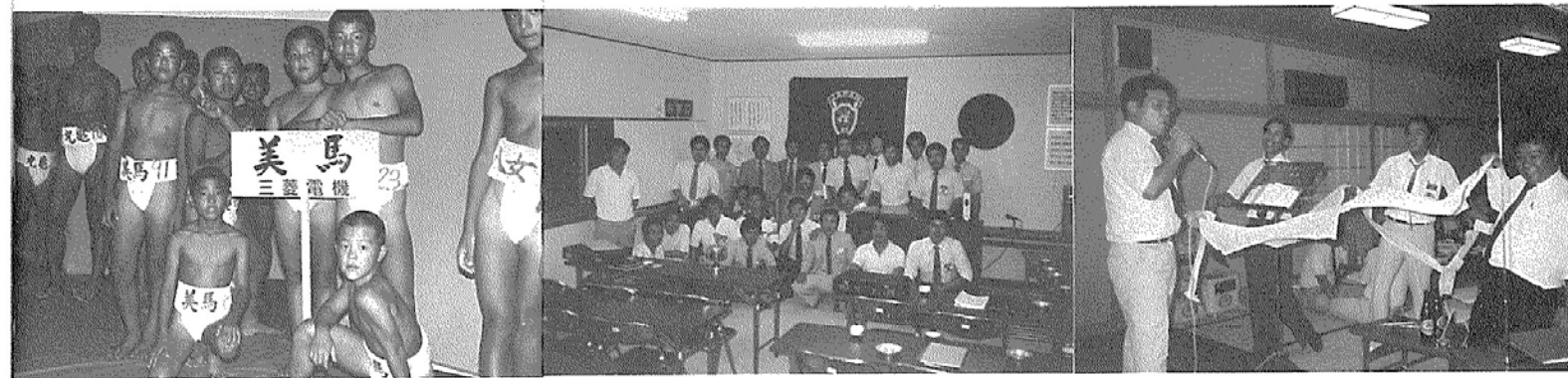
わが美馬J.Cも発足以来1カ年余を経過しました。設立準備委員の皆様方の、ほぼ10カ月にわたる御苦心、さらには、サポートして下さった各団体、個人の方々の熱意の結果結果したわが美馬J.Cのこの1年の歩みは、会員諸氏のやる気と努力に支えられて、活気ある意義深いものであったと思います。

とは言え、まだわれわれの圏域社会への働きかけは充分であるとは申せません。この1年間は、まだまだ美馬J.C内部の結束と友好に重点がおかれ、圏域社会においてのJ.Cの存在価値を対外的に認識せしめ、かつまた社会への貢献を果たすというところまでには至っていない段階であったことは否定できぬであろうと思われまふ。たしかに地域社会におけるわれわれ若き経済人同士の友好と結束は非常に重要であります。国の内外は言うまでもなく、また国内の中央、地方を問わず経済不況の波は、われわれを翻弄しつづけております。この現況においてこそ、われわれは結束を強め苦境を打ち破るために相互の協力を惜しまぬようにしなければなりません。しかしわれわれJ.Cにとって、さらに重要なことは、単にJ.C内部での親睦友好を深めるだけでなく、結束して地域社会を、より豊かなものへとクリエイトしてゆく努力であります。具体的なプランをたて、それに従って強力な行動を推進してゆくとき、それ故にこそ、さらに結束は強まってくることでしょう。さてそれでは、われわれJ.Cが地域社会に貢献し、より行動的であるために、われわれはどのようなべきでしょうか。われわれはすでに現在各々の企業を営み、その経済活動を通じて社会機能の推進の一端を担っていることは事実であります。自己の関与し、経営する企業体をより隆盛に導く努力が、とりもなおさず社会を進展せしめる動因であることは言うまでもありません。だがそれだけではJ.Cの意義は半ば満すに過ぎません。そのレベルでは満足しないからこそそのJ.Cであります。個々の企業体のレベルを超えて、より豊かな地域社会をクリエイトする母体としてのJ.Cでなければなりません。そのため私は1つの方針として「政経一致」の方向づけを提案したいと思うのであります。

政治と経済は常に表裏一体をなすものであります。たとえわれわれが社会福祉に貢献すべく様々な行事を行ったところで、それが行政サイドによって裏付けられていなければ、単なるイベントに終るだけであります。イベントは、それがどれほど効果的なものであろうとも、所詮は一時的なお祭り騒ぎにすぎません。われわれはもっと永久的な、社会に根づく様なプランをおこし、社会を創り上げる働きをしなければなりません。それには行政機関とタイアップなくしては事はならないでありましょう。圏域社会内の各行政機関と常に緊密な関連を保ち、行政サイドでおこす事業にアイデアを提供し、それらを積極的にサポートし、また場合によっては主導的にこれらを推進してゆく立場をとること。われわれJ.C人の本来の能力がフルに発揮されることでありましょう。過疎対策、老人問題、雇用問題、地域購買力の活性化、さらには青少年問題。特に有能な人材をどのようにして地域社会のために活動させるか。現今の社会風潮はあながちに中央志向ばかりではありません。有能な青年たちも多くは、働き甲斐のある場さえあれば故郷の地で働くことを希望しているのです。われわれが参加して行動すべき問題はいくつでもあります。豊かで魅力ある地域社会建設のために活発に行動してゆく時は、まさに今であると信じているものであります。

夢
1983

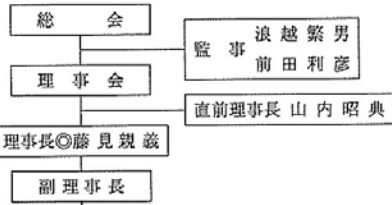
F R A M E S H O T



◎理事

国際青年会議所
日本青年会議所
日本J.C四国地区協議会
徳島ブロック協議会

出向者
北岡 秀二君
脇川 弘志君
永井 明君





(株) 美馬青年会議所
1984年度第3代理事長

浪越繁男

10th
anniversaries
message

祝 辞

1984年度の美馬J Cの理事長として、無我夢中の一年でしたが、今振り返って見ますと、昨日の様にいろいろな事が思い浮かんで来ます。

設立間もないL O Mという事で、J C活動がどういう物が私自身十分理解していなかったのも、とりあえず先輩J Cから教えてもらおうという事で、他L O Mからの参加案内がありました事については、100パーセント近く出席させてもらいました。そうした活動の中で、何か事業をしよう。そして知恵を出し汗を流す事によって会員相互の、友情と信頼作りに役立つのではと思ひまして、四国地区協議会による日中文化交流事業を主管しました。

これは、西安の古典民族音楽学院の学生を招いて、各県二会場の演奏会を行うという事で、地区で最初の演奏会を穴吹町で、会場に入れ切れない位の人々が集まっていた事で、大成功の内に終わる事ができました。

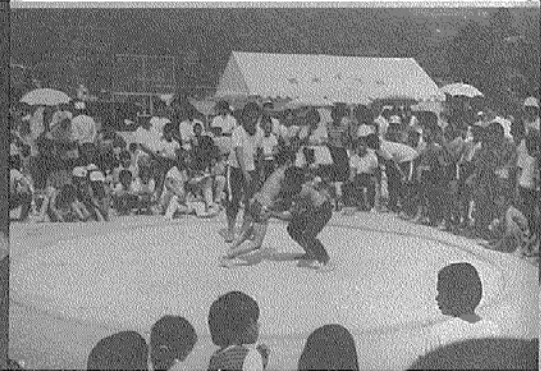
それまでには、いろいろな準備がありました。西安の招待には、我が美馬J Cからは藤見直前理事長、宇民君、南君、逢坂君に行っていました。また穴吹での会場設営、美馬、穴吹両役場への表敬訪問、宿泊の美馬温泉での徳島ブロックの歓迎会。最後に高知での地区の送別会。高知空港までの見送りまで会員全員、物心両面にわたり参加していただいた事が、成功の内に終わる事につながったと思っています。当時の会員の皆様ありがとうございました。

最後になりましたが、美馬は一つというスローガンの元に美馬J Cは始まりましたが10年を経過して、会員相互の気持ちは達成できたと思います。一つとなった心で、美馬地域の活性化のため、又環境保全（例えば生活様式の変化、「下水、生活排水の増大による吉野川の汚染防止」）のため、若さと情熱を持ってJ C活動に取り組んで下さい。

美馬J Cが今後益々発展する様期待して居ます。

M Y

O L D



1984年度
主な事業概要

- 3月17日 経営シンポジウム
- 4月15日 社団法人認可祝賀会
- 7月1日 三代交流ゲートボール大会
- 7月21日 美馬J C・LD道場
- 9月17日 日中文化交流音楽会
- 10月21日 第3回美馬ちびっ子相撲大会
- 11月21～23日 韓国コーチャンJ C訪問
- 11月26日 第3回桜いっぱい運動
- 12月26日 J C・OB忘年会

(社)美馬青年会議所 1984年度所信表明

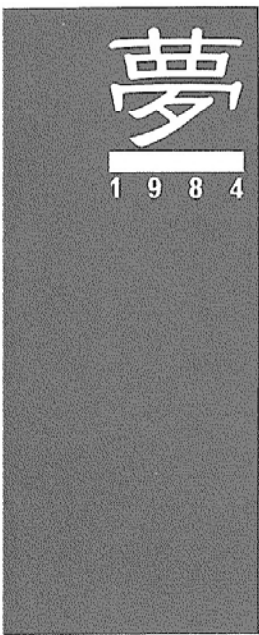
新年あけましておめでとうございます。84年度理事長に就任するにあたり、基本方針を述べさせていただきます。わが美馬J.Cも早、発足以来4年目を迎えました。過去活発な活動を展開し、他L.O.Mも目を見張るような活動をしてきました。参加者も倍増した「美馬ちびっこ相撲大会」「認可なった社団法人化」など、数々の優れた業績を築きましたが、当J.Cの現状を野球にたとえると、今までは2、3人のホームランバッターがいて、得点をたたき出してくれたが、これからは全員が内野安打で、テキサスヒットでもよい、いやボールをよけないで、デッドボールになっても出塁し、コツコツと得点をあげてもらわなければならないと思います。そのようなわけで「会員相互の結束を強め、その啓発を計る」を私の基本方針としたいと思います。

まずJ.Cの活動は参加することにあるということは、従来言いふるされて来た事ではありますが、どんな会合でも自分自身で参加せずしてはその会合の雰囲気なり、意義なりが十分理解し得ない事は当然であります。そこで私からお願いがあります。

例会・委員会の出席はもちろんであります。会員それぞれ最低年1回は各地の「周年事業」「大会」等への参加をお願いします。そういう活動を通じて会員の方それぞれが、極力広い交際範囲をもつ様に努力し、会員なればどの方々とも気安く話せるし、遊べるし、酒も飲めると言う様になり、会員相互の結束を強めていってほしいと思います。

我々の活動が地域社会から認知されるには…、その答えは、駅伝競争の中に見つけることができるような気がします。一人一人が全力をあげて走り、着実に他の走者にバトンを引き継ぐ、ポストからポストへの、世代から世代へ、地味ながら基本はこれしかない。むろんその裏には厳しい練習、練習の連続……、考えただけでもあ～あ。正月気分もこれまでか！

私自身も悔いのない1年となるよう努力いたしますので、会員各位の諸君、よろしく御指導ならびに御協力をお願いいたします。



F R A M E S H O T

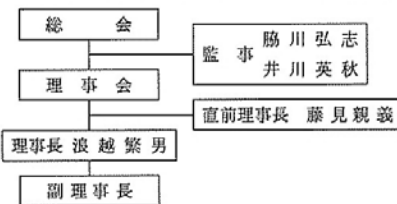


出 向 者

- 藤見親義 (徳島ブロック)
- 井上 実 (")
- 山口賢二 (日本 J.C)
- 斉藤 衛 (")

◎委員長

○副委員長



1984年度組織図





(株) 美馬青年会議所
1985年度第4代理事長

脇川 弘志

祝 辞

はぐくもう英知と友情、手をつなごう“新しい美馬”というスローガンをかけ、設立され、関係諸団体又、会員諸兄の努力に依りはや10周年を迎え、社会的に今迄以上の責任を求められる青年会議所になられおめでとうございます。

設立時に日本青年会議所への加入申請書等の作成で数日間の徹夜をした事や、加入申請書の提出で鹿児島・京都へ行った事が昨日のように思われます。

不図しも1985年に四代理事長を拜命し、会員諸兄の絶大な協力のもと、三世代ゲートボール大会、四国88ヶ所リレーマラソン、美馬ちびっこ相撲大会並びに全国わんぱく相撲大会、美馬郡民に対する住民意識調査等の数々の諸事業を消化しました。想えば、各事業等が青年会議所の最大公約である一年一年である為に制約が有りますが、各担当者が企画立案実行し、完全燃焼する青年会議所運動は他の団体には無い組織ですからすばらしいの一言です。

「奉仕・修練・友情」の三信条にもとづく、“明るい豊かなまちづくり”でありませんが、各青年会議所により地域格差又経済格差が有り、一段の過疎化と高齢化の進行する美馬郡の地での運動は極めて厳しい局面も有りますが“英知と勇氣と情熱”をもって、すばらしい美馬郡をつくる為に、志を同じくする会員諸兄により、理想に燃え、郷土愛を失わず更なる20年に向かって10年間で得た手法に磨きをかけ、限らない挑戦を祈念し、お祝いのごことばといたします。

10th anniversaries message

M Y

O L D



1985年度 主な事業概要

- 3月27日 パーフェクト例会
- 3月28日 社会福祉大会
- 5月1日 ジャがいもゴルフ大会
- 5月16日 第4回ちびっこ相撲大会
- 5月26日 第2回三世代交流ゲートボール大会
- 7月5日 M I A研修会
- 7月21～22日 家族会（阿南Y M C A）
- 8月3日 うだつの城下まつり写生大会主催

(社)美馬青年会議所 1985年度所信表明

美馬の地に青年会議所の燈が『はぐくもう英知と友情、手をつなごう新しい美馬』のスローガンのもと志を同じくするメンバーにより、青年会議所運動が展開され、今年で5年目ですが一応の事業燈も美馬郡内住民等の方々に認められ、今後(社)美馬青年会議所への各方面からの期待は増々大きく成っています。メンバーの団結により1985年へ踏み出すにあたり『友情』『奉仕』『修練』の三信条を踏まえ、美馬J.C.の歴史と成果をより以上に作る為に、目的意識をしっかりと持って、総意を結集し、明日に向けて『明るい豊かな社会』を、メンバー自らの手で一つ一つ作って頂きたいと思ひます。

85年度基本方針

I 委員会の活性化

J.C.運動は委員会活動の集積であると私は確信しています。各委員会のメンバーは全員参加し、討論をし自分自身に刺激を与え、責任を持ったJ.C.運動により、参加することの喜びが味わえる各委員会運営を確立したいと思います。

II 地域の活性化とJ.C.運動

設立時よりの問題でありました美馬郡内の活性化について勉強研究し、郡内の各種団体等に働きかけ、『地方の時代』を、共に考え一提言をししたいと思います。

III メンバーのパワーと拡大

スリーピングメンバーとの対話を重ね、より以上のパワーを作り、よりよいJ.C.運動を展開する為に是非とも、すばらしい新入会員を拡大する事。

夢

1985

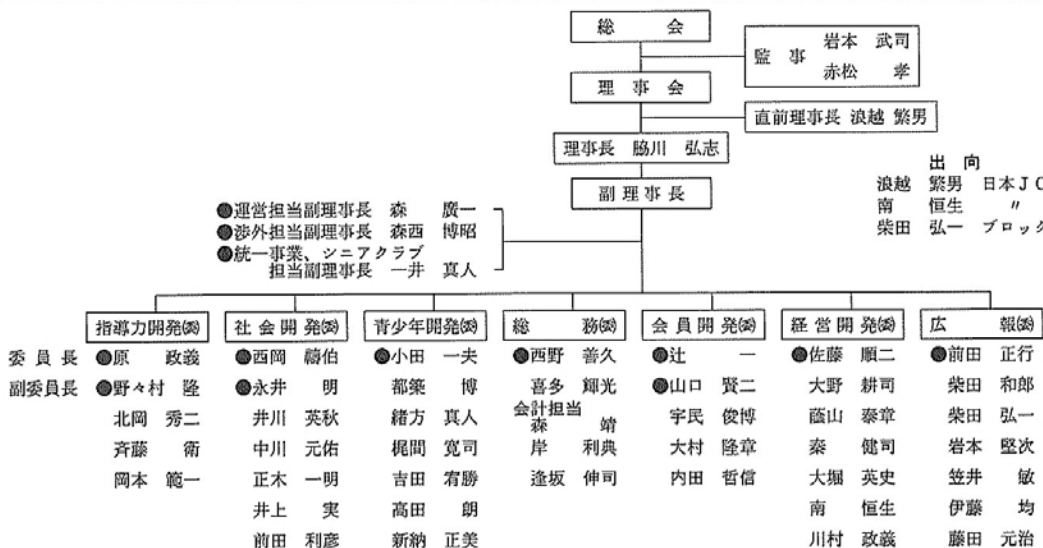
F R A M E S H O T



- 運営担当副理事長 森 廣一
- 渉外担当副理事長 森西 博昭
- 統一事業、シニアクラブ担当副理事長 一井 真人

- 出 向
- 浪越 繁男 日本J.C
 - 南 恒生 "
 - 柴田 弘一 ブロック

1985年度組織図





(株) 美馬青年会議所
1986年度第5代理事長

森 廣 一

祝 辞

創立10周年おめでとうございます。

“美馬は一つ”の合言葉のもとに郡内の有志が美馬広域住民センターに集い、過疎化の進む我が故郷美馬の活性化を目指し、地域社会のニューリーダーたらんと情熱に燃えて誕生した美馬青年会議所も早や10才となりました。創立以来、JC屋を自負し、毎夜毎夜真剣に激論を戦わした日々、そして数々の友人知人との巡り合い等数々のなつかしい思い出がよみがえってきます。

シニアとなった今、かつての情熱は何処へ行ってしまったのか。JCで培った英知を生かしているのだろうか。地域社会のリーダーシップを取れているのか。等等自問自答の毎日です。

“継続は力なり”まさに会議所活動は、私達シニアから現会員へ脈々と受け継がれ、数々のインパクトを地域社会に与え、又地域社会から我々も数多くの教訓を与えられました。美馬青年会議所が存在するがぎり地域社会は明るい社会にむけて成長し続けるはずです。

私が理事長のとき、時の会頭がスローガンとして“灯々無尽”という言葉を提唱されておりました。これはJC活動とは地域社会の人達(ローソク)の一人一人(一本一本)に地域を愛するという灯りを無限に点し続けることであります。か弱い一本のローソクも数千いや数万本になるならば、すばらしいしっかりとした灯り(力)になるはずです。

シニアも現会員も、私達の周りの人達にJC活動の灯りを点す努力を更なる20周年にむけて続けたいものです。美馬青年会議所の益々ご活躍ご健闘をお祈りしてご祝詞といたします。

10th anniversaries message

M Y

O L D



1986年度 主な事業概要

- 4月19日 早朝例会
- 5月12日 第1回美馬青年会議所公開講座
- 5月18日 第3回三世代交流ゲートボール大会
- 5月25日 第5回ちびっ子相撲大会
- 6月28・29日 四国地区青年経済人会議
- 7月19日 徳島ブロック会員大会主管「LOVE吉野川いかだ下り大会」
- 8月23・24日 家族会(阿南YMCA)
- 9月3日 6万人例会
- 11月1・2日 美馬広域物産展に参加

(社)美馬青年会議所 1986年度所信表明

修練、友情、そして町づくり

私達は、脇町、穴吹町、貞光町、半田町そして美馬町の美馬郡五町の志を同じくする青年が、明るい豊かな社会づくりを目指して今から5年前に美馬青年会議所という組織を作り、集いました。

そして、私達は、地域のニューリーダーとなるべく自己修練に励み、会員相互の友情を深め、ふるさとの活性化や青少年健全育成等の各種の事業を精力的に推進してまいりました。

最近、美馬郡内で、単一町村単位ではありますが、各種のイベントが催され、ようやく活性化への挑戦がはじまりつつあります。そして、我が会議所のメンバーがこれらのイベントの中心的存在となっている事実は、少なからず社団法人美馬青年会議所の活動が確実な足取りで前進していることの現れであります。

私達のふるさと美馬も、本四連絡橋の完成と縦断、横断自動車道の整備開通等の外的要因により今までにない環境の激変が予想され、いやが上にも私達青年の使命は非常に重大なものとなります。

このような時代に、私達がなすべきことは何でしょうか。そして私達には何ができるのでしょうか。残念ですが、私達には確たる自信はありません。みなさんはどうでしょうか。

そこで、私は、

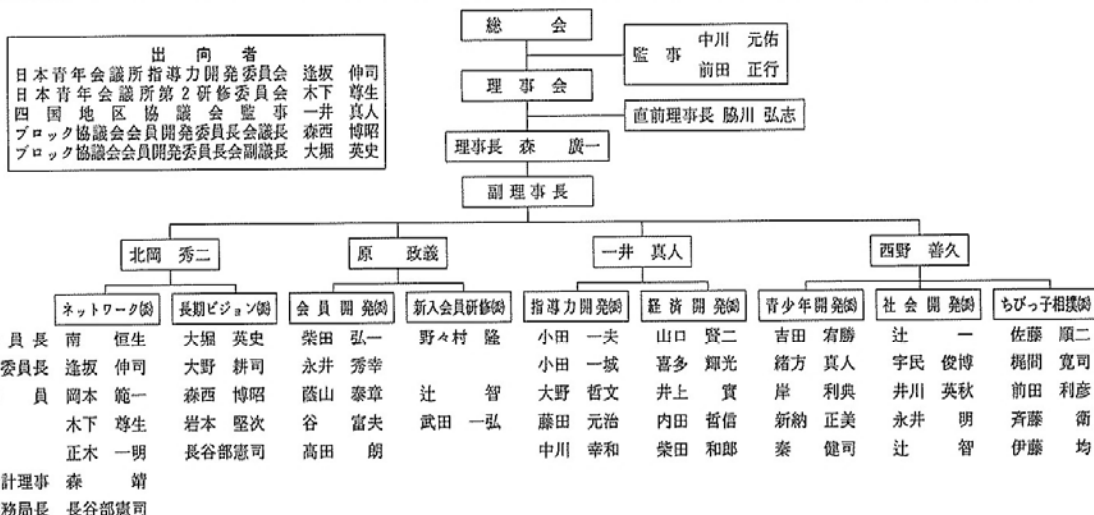
1. 会議所は、私達の自己修練、研鑽に励む道場である。
2. 会議所活動は、自分が自らの為にするものである。他人がしてくれるものではない。
3. 会議所を通じて、苦しいこと、楽しいことをいっしょに味わい、会員相互の友情を深める。人づきあいも修練である。苦手な相手ほど、いっしょに活動して、自分を理解させるとともに相手を理解すべきである。
4. 『美馬は一つ』を基本において、各町村の町づくりにも積極的に取組む。

を1986年度の社団法人美馬青年会議所の活動の基本方針とさせていただきます。

そして、私は、修練を通じて、更に友情を深めあい、すみよい豊かな町づくりに会員諸兄と共に努力できればと願っております。最後になりましたが、理事長というとても重い修練の機会を与えて下さいました会員諸兄に心より御礼を申し上げますとともに、会員各位の御努力、御活躍を祈念申し上げる次第であります。

夢
1986

F R A M E S H O T



1986年度組織図



(社) 美馬青年会議所
1987年度第6代理事長

森西博昭

10th
anniversaries
message

祝 辞

青年会議所の皆様、益々ご隆盛のこととお慶び申し上げます。また当年をもって創立10周年という記念すべき年を迎え、10周年記念行事や美馬青年会議所初のブロック長を輩出し、ブロック関係の行事等過去9年間に経験のない種々の作業がメンバーの皆様を悩殺していることと拝察いたします。大変なご苦労と思いますが、美馬青年会議所が名実ともに社団法人美馬青年会議所として一人立ちした思いがいたします。OBとして心からお慶び申し上げます。

今、青年会議所時代7年間を思い出しますと、まず30才台の我青春は何事にも優先して情熱をもってとりくんだ各種活動に、我ながら元気だったなあと感慨一しおのものがあります。

無我夢中でとりくんだ創立総会までの設立準備のこと、認承書伝達式においての定款づくり、役員選出方法と定款問題で夜を徹して激論したこと、社団法人格を取得すること、会費の銀行引落しのこと、すもう大会開催のこと、LOVE吉野川のいかに下り、ブロック会長大会の開催、美馬フォラソンのこと等、その時々のメンバーの顔を思い出し本当に青年会議所活動を卒業までの7年間、精一杯頑張ったという自負と多くの県内メンバーと知りあえたことを誇りに思います。

今、各種団体に種々関係をいたしますけれども青年会議所の活力と情熱は他に例をみないと申しても過言ではありません。

現役のメンバー諸兄、二度とない20～30才台思いのままに精一杯頑張ってください。10周年を機に内部の充実と社会的な貢献にコンセンサスのある哲学をもって「社団法人」の名に恥ない素晴らしい活動を一丸となって展開していただきたい、そして来るべき15、20周年にむけて英知を結集し快適な地域社会の創造に大いなる足跡を残してほしいと思います。

M Y

O L D



1987年度
主な事業概要

- 2月25日 献血運動に参加
- 4月1日 家族会（穴吹町・尾山）
- 5月17日 第6回美馬ちびっ子相撲大会
- 6月21日 第4回三世交流ゲートボール大会
- 11月18・19日 韓国コーチャンJC訪問
- 11月27日 フォラソン・IN・美馬

(社)美馬青年会議所 1987年度所信表明

美馬J.Cも設立以来5ヶ年を経過しました。

この間、先輩理事長各位のご指導とメンバー各位の御協力により、J.C内部の結束、親睦はもちろんのこと地域社会においての美馬J.Cの存在を対外的に認識せしめ貢献して参りました。

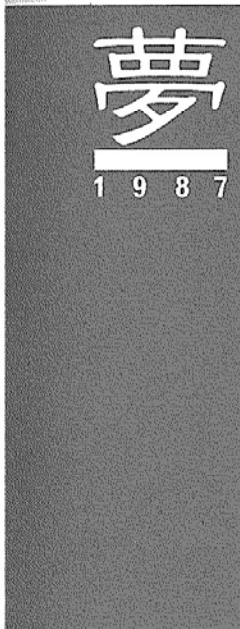
私達はこの5年間の貴重な足跡を土台として地域社会の活性化に向けて、具体的プランと強力な行動力をもって“ふるさと創造”をはかる必要があります。幸いにも美馬J.Cは単一の行政圏を越えて美馬郡内各町よりメンバーが参集しており広域行政圏にわたる団体として、またこれからのふるさとを考えるに当たって単一町村ではむずかしい諸問題を広い目で眺めながら新しい社会を思い描くことが可能なのではないのでしょうか。

今、私達J.Cに望まれるのは、長期のビジョンの中で社会に根付く中核としてまたプランナーとして機能していくことであると考えます。

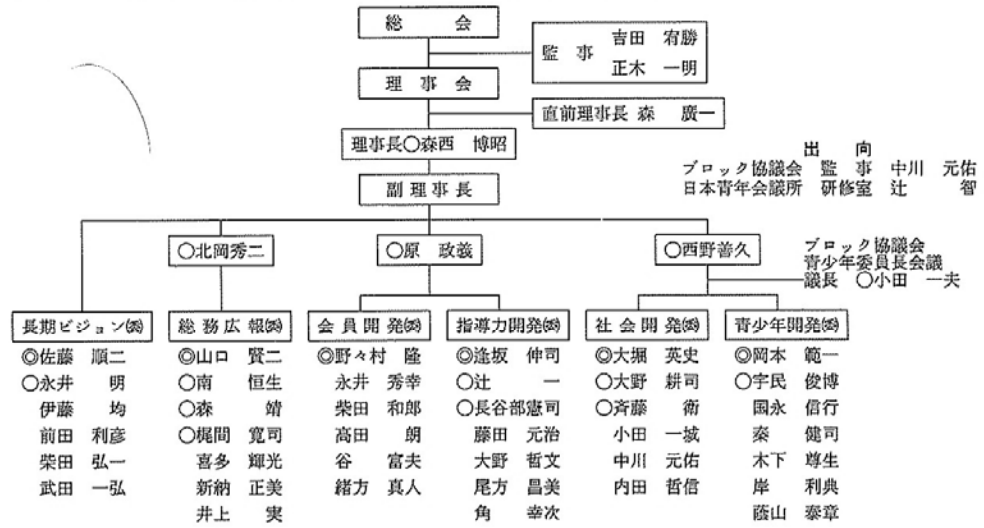
6年目の美馬J.Cは役に立つJ.Cを目指して第一歩を踏み出す重要な年であります。そのためにも役に立つJ.Cとは…魅力あるJ.Cとは…の観点から郡内各町村の抱える諸問題を基に充分な討議と意見交換を行い10周年に向けてのJ.C内のコンセンサス作りを計る必要があると思います。

微力ではありますが会員各位の御協力を賜り明るく豊かな魅力ある地域社会の創造のための推進役として機能できるよう頑張る覚悟でございます。

会員各位の旧倍のご指導御協力をお願い致します。



F R A M E S H O T



出 向
ブロック協議会 監事 中川 元佑
日本青年会議所 研修室 辻 智

ブロック協議会
青少年委員長会議
議長 ○小田 一夫

1987年度組織図



(社) 美馬青年会議所
1988年度第7代理事長

原 政 義

10th
anniversaries
message

祝 辞

美馬青年会議所10周年おめでとうございます。また、この記念誌発行の準備にあられた関係者の皆様に心より敬意を表したいと思います。

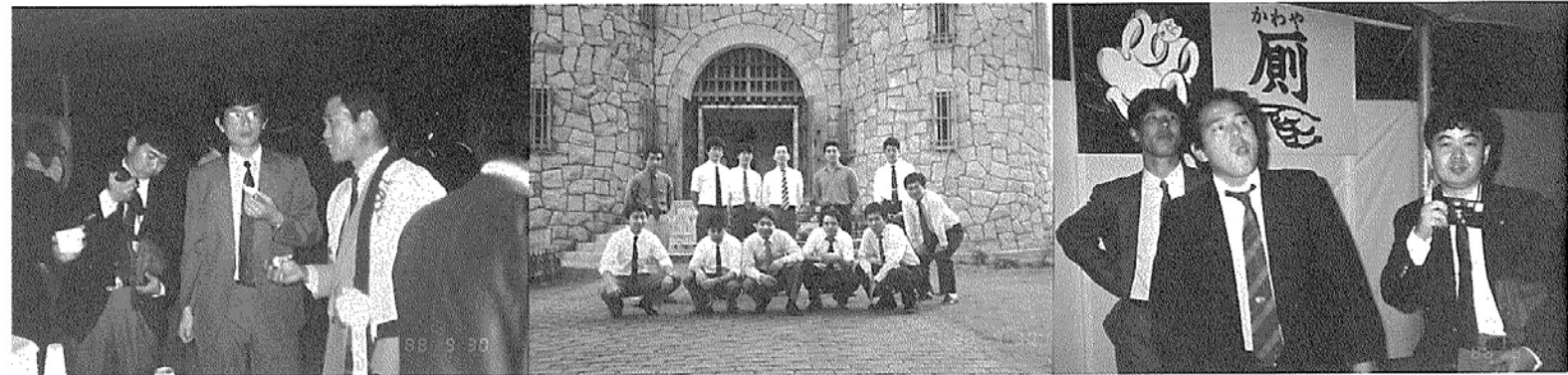
美馬J C 10周年、一口にこう言っても、その間にはいろいろなことがありました。英知・情熱・勇気を持ち、力を寄せ合い豊かな地域社会づくりに貢献しようと、友と共にひたむきに行動した日々がなつかしく思い出されます。活力ある魅力に富んだ地域づくりのためには、まず「人づくり」からと、会員一人一人が自覚し、目標をたてて連帯感と責任感をもって行動したならば、何でもできる。地域をよくしようと思う人々の情熱量とそれらの周囲に与える影響力の大きさに比例して地域は発展していく。そして、目標に向かって活動する過程において喜びと感動が生まれるということを知りました。

やってやれないことはない。それなりに努力し懸命になることこそ大切だということ学びました。J C 活動は地域における単なる奉仕活動ではありません。私たちの企業と生活を維持させるための基盤の確保、充実させようとする運動にしていかなければなりません。その意味においても10周年は美馬J C にとって重要な節目の年であると思われまふ。そこでメンバーの皆様にはこれを機に美馬J C 創立以来の活動を見直し、意識においては長期展望にたち、21世紀のイメージを描きながらビジョンを作り上げ、それに添った上で今、何をなすべきかを考えて欲しいと思うのです。ただに時の理事長が自己の足跡を残すためだけに毎年毎年目先の変わった運動を起こすのでは地域の変化は望めません。メンバーがロマンを持ち、英知を結集して真剣に考え、おおいに語り合うことが大切であろうと思います。

「言うは易し、行は難し」計画されたことがらは論議を十分に戦わせた後にさらにもっと広く、あるいは深く考えて実行し、地域社会の発展に貢献していただきたいと思ひます。メンバーの皆様若き情熱で明るい心豊かなふるさとづくりに頑張ってください。美馬J C のご発展を心よりご期待申し上げます。

M Y

O L D



1988年度
主な事業概要

- 4月24日 第5回三世交流ゲートボール大会
- 6月5日 第7回美馬ちびっ子相撲大会
- 8月6日 うだつの城下まつりイベント参加
- 8月7日 穴吹川いかだ下りレースへ友情参加
- 9月4日 第2回美馬J C 杯争奪少年野球大会
- 9月30日 高知全国大会にて100%例会
- 11月15～17日 日中友好コンサート

(社)美馬青年会議所 1988年度所信表明

図らずも、次年度理事長という大役に御指名頂いた訳ですが、私のような者に一体何が出来るのか、果たして先輩理事長諸氏のように、一年間無事に努めることが出来るのだろうかと甚だ心もとなく思っております。しかし、このような私のJ.C生活を振り返ってみると、ただ一つだけ胸を張れることがあります。それは、昨年(1986)九月三日の100%例会でした。

当時の河村日本J.C会頭の「九月三日に全国で100%例会を」の呼びかけに、我がLOMでも森理事長と共に、会員開発委員会担当副理事長であった私が、全会員に電話で、また、直接会ってお願いした結果、創立5年目にして初の100%例会を達成することが出来ました。

今でも、ご協力頂いたメンバー諸兄に深く感謝すると共に、どんな困難な目標に対しても、『英知』と『勇氣』と『情熱』をもって懸命に努力すれば、必ず達成出来る。そして、その努力が『友情』に『奉仕』に『修練』につながるのだということを確認出来たという意味において、私のJ.C生活の中で最も大きな出来事でした。

私は、この外にもJ.C活動を通じて多くの友人と知り合い、修練を積み、人間的にも少しは成長することが出来たのではないかと考えています。

私に、この素晴らしい機会を与えてくれた美馬J.Cを、もっともっと充実したものにして、後輩会員の皆さんに引き継いで行くことを、残り少ないJ.C生活の目標にしたいと思い、理事長という大役をお請けした次第です。

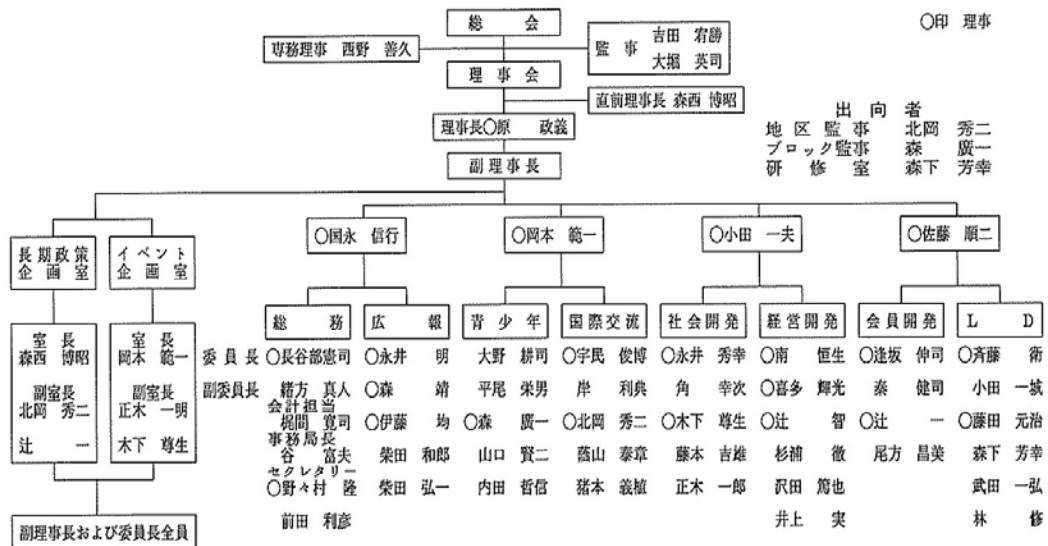
夢

1988

F R A M E S H O T



1988年度組織図





(社) 美馬青年会議所
1989年度第8代理事長

西野善久

10th
anniversaries
message

10周年を振り返って

(社)美馬青年会議所10周年の記念すべき日を迎えるにあたり、先輩諸兄、会員のみなさま方、またこれまで温かい気持ちでご支援を賜りました関係各位に対しましては心から感謝を申し上げます。

(社)阿波池田J.Cの熱心なスポンサー活動のもと、(社)美馬J.Cが誕生して10年の歳月が過ぎようとしています。連日連夜の設立準備会から卒業までの9年間お世話になった訳ですが、いろいろな出来事が脳裏をかすめてゆきます。

「美馬は一つ」のスローガンのもと、明るい豊かな、住みよい美馬を創ろうと色々な事業を展開してまいりました。1989年度日本J.C「地球時代のデッカイしあわせ、つくりかえよう人間と地球」のスローガンのもと、徳島J.C主管の「徳島宝舟」、我J.C主管の秘境剣山のふもと長尾山で行なった「ブロッカー泊研修会」、恒例の「第8回美馬ちびっこすもう大会」、脇中を会場に郡内の中学生対象の「外国人と語る会」等々、また同期の各理事長宅を訪問し酒をくみかわした理事長会……会員諸兄の理解と援助のもと無事一年間を乗りきったときの感動と感謝、また9年間の充実したJ.Cライフを振り返ってみても胸がつまる思いでいっぱいです。

数年先には美馬の地を高速道路が開通し、いよいよ高速道路時代に突入する訳ですが、21世紀に向っての青年会議所活動の役割りは極めて重大であり、その資質が問われる時代に突入したとも言えるのではないのでしょうか。飽食の時代といわれる昨今ですが、政治経済・文化、又、心の時代と言われるように国際的視野に立ち、調和のとれた地域社会の創造にJ.Cマンの旺盛な精神が必要だと思えます。地域の自律、自営を基本的視野において、その個性、特性を活かしながら、自分たちの地域はこうありたいという長期的ビジョンが不可欠です。そのビジョン実現に向けて、何をどうすればどのような結果が得られるのかという実施計画が必要になってくるでしょう。計画に基づき、市民、企業、行政に提言(仕掛け)し、地域がどう変化したかを評価しながら、また次のステップへと。地域づくりには夢とロマンが不可欠です。J.C運動は自分自身の未来を創造し続け、また21世紀を創造して行く運動にあると確信しています。

会員諸兄の積極的な参加と、自由奔放な発想、提言に期待いたします。

M Y

O L D



1989年度
主な事業概要

- 1月21・22日 京都会議
- 2月25日 西部3ロム合同例会
- 5月13・14日 新入会員オリエンテーション(木屋平 平成荘)
 - 第8回美馬ちびっこ相撲大会
- 7月30日 美馬郡内中学生と外国人とのつどい

(社)美馬青年会議所 1989年度所信表明

我が(社)美馬青年会議所は、(社)阿波池田青年会議所のスポンサーのもと、創立以来8年を迎えます。その間、大きな社会変化の中で地域社会にも認知される団体となろうとしています。諸先輩方の努力の結果であり、我々の誇りとするところでもあります。『明るい豊かな社会を築きあげよう』という綱領のもとに集う我々50余名の会員に共通するものは『青年』であるということです。そして、『青年』だけに共通するものは『行動力』であると思います。

21世紀に向かって愛される郷里づくりにメンバーの総意のもと、英知と、勇気と、情熱を傾注し、『美馬はひとつ』を基本テーマに置き、地域に根ざした行動力のある運動展開を図らねばならないと考えます。

基本方針

1. 会員の拡大と質の向上

J C活動に尽力された多数の先輩方の卒業を目前にし、また、10周年という大事業を控え、50%の会員拡大を目標に取り組みたいと思います。会員相互の信頼を、より密なものにするための事業展開。阿波時間の打破、例会、委員会への積極的参加等、個々のモラルに問いかけて、会員の質的向上を目指します。

2. 委員会活動の活性化

J C運動は、委員会活動の集積であると思います。それぞれの明確な目標に向けて、一步一步着実に前進させ、各メンバーの責任ある活動により、充実した委員会活動を展開したいと思います。

ロム重点事業

- | | |
|-------------------------|-------------|
| 1. 50%の会員拡大 | (会員開発委員会) |
| 2. 新入会員への研修の徹底 | (指導力開発委員会) |
| 3. ブロック新入会員オリエンテーションの主管 | (指導力開発委員会) |
| 4. 西武3ロム合同例会の主管 | (会員開発委員会) |
| 5. 地域の活性化に関する研究及び事業 | (社会開発委員会) |
| 6. 青少年の健全育成に関する事業 | (青少年開発委員会) |
| 7. 10周年記念事業に関する研究及び企画立案 | (長期ビジョン委員会) |
| 8. 会員相互のネットワークの確立 | (総務広報委員会) |
| 9. 第8回美馬ちびっこ相撲大会の開催 | (実行委員会) |
| 10. 地区及びブロック事業への協力 | |

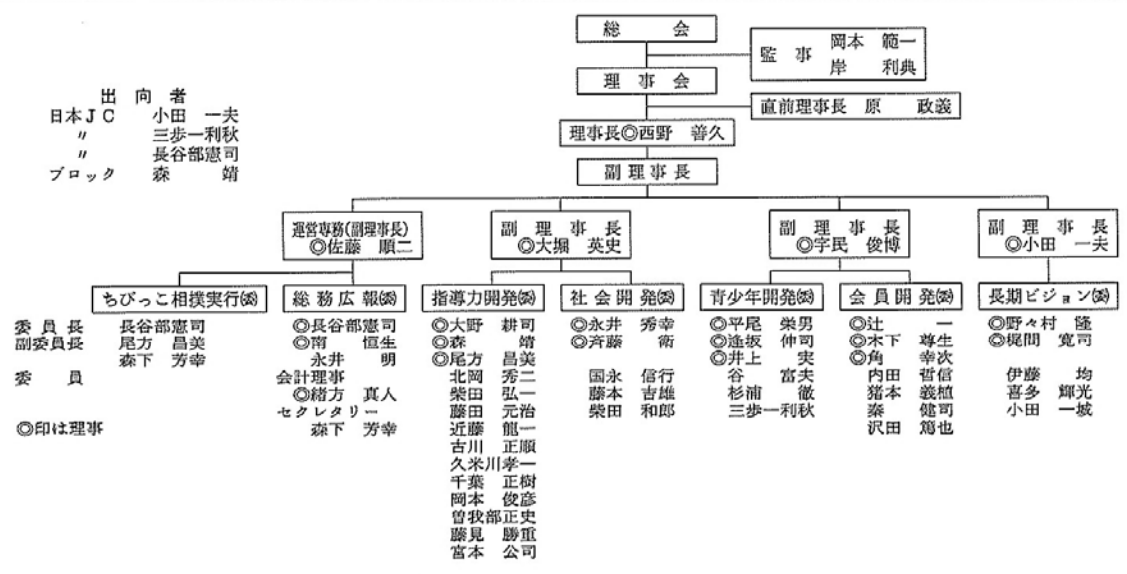
夢

1989

F R A M E S H O T



出向者
日本J C 小田 一夫
" 三歩一利秋
" 長谷部憲司
ブロック 森 靖



1989年度組織図



(株)美馬青年会議所
1990年度第9代理事長

佐藤 順二

10th
anniversaries
message

祝 辞

「90年代の幕あけを告げる…」ではじまった平成2年度は「パワーUP J.C・パワーUP美馬」をスローガンにスタートしました。

90年代、国際的には地球環境問題が大きなテーマとなり、私達は国際的な視野の中で地域の活動が求められます。そして私達のこの美馬の地域も、明石海峡大橋・四国高速道等により、京阪神をはじめとする大都市圏に組み込まれます。好む好まざるにかかわらず、地域の対応が余儀なくされようとしています。私達はこうした90年代の社会資本の整備を、地域の大きな飛躍のチャンスとしてとらえるものでありました。

当年のロムの方針は、美馬J.Cの10周年を次年にひかえ、ロムの充実、活力アップとし、美馬の地域のパワーUPにつながるの考えが基本的なものでした。

そうした背景の中、郡内各界より150余名の出席のもと、開催された第1回新年名刺交換会は「美馬郡にとっての90年代」を認識することができました。J.Cも10周年に向けて1歩踏みだしました。

そして初めて実現した会頭のロム公式訪問は、県内各ロムより130余名の参加もあり、美馬J.Cは1つの大きな経験を積むことができたと思います。

私個人にとっても会員の皆様のあたたかいご協力を得、1990年はたいへん有意義な一年でありました。

美馬J.Cは10年間にわたり会員が幾度となく会を催し、数多くのすばらしい事業に取り組んできました。その集大成としての10周年、10周年を期に「内を固め、外にうって出る」美馬J.Cとして大きな飛躍を期待致します。行政、各種団体との交流はもとより、1歩進んで地域の住民をもまきこんだ運動が最も大切です。

今日10周年記念式典を迎えるにあたり、私達メンバーは再度「明るい豊かな美馬」がどういふ美馬かを問い、その実現の為にJ.Cとしてどう取り組んでいくかを考え、語り合おうではありませんか。

M Y

O L D



1990年度
主な事業概要

- 1月9日 新年互例会
- 4月2日 家族会(グリーンヒルあなぶき)
- 5月10日 (株)日本青年会議所会頭公式訪問例会
- 5月27日 第9回美馬ちびっ子相撲大会
- 7月7日 ブロック会員大会での100%例会
- 8月2・3日 テーマウォークイン剣山
- 8月4日 サンコンふれあいコンサート(オースマン・サンコン氏)
- 8月11~15日 '90ふるさとギャラリー(中学生対象の絵画コンクール)

(社)美馬青年会議所 1990年度所信表明

ある動きが極端なところまで行くと反動が生まれる。それは『振り現象』と呼ばれる。

私達の地域社会は、戦後の経済復興・高度成長の中で、人口の都市への集中などにより、過疎が進み、地域の伝統的な慣習も大きな変化が現れた。振子は大きく揺れ、極に達したようである。近年の私達の運動は、振子を反対方向に動かす試みで、新しい地域づくりの試みであると思われる。

10年後に迎える新世紀にも美馬は魅力ある地域でなければならない。その為には私達の生活するこの美馬を、真に『自立』出来る地域につくりかえねばならないと考える。新世紀へ向けての「生き残り」ではなく、「真に自立した、個性的な、快適で活力ある地域づくり」こそ我々の活動の目標でなければならないと確信する。

私達は、美馬を自信に溢れる、そして次代に自慢のできる地域とするための新しいまちづくりに取り組まねばならない。それは地域の復権であり、私達は必ずおこる交通体系の大きな変化の次代に、そして高度情報化した次代に、地域が自立し、主張し、発信する美馬の地を想像し、つくりかえの実現へ向けてのアクションを起こす時はまさに『現在(いま)』しか無い。

『パワーアップ美馬、パワーアップ美馬JC』

美馬青年会議所は来年度、10周年を迎えます。10周年記念事業をひかえて、地域のパワーアップの気概をこめながら、まずは、LOMのパワーアップを図る必要があります。そのためには、積極的な対外事業の展開とLOMの体質の強化、会員の資質の向上が重要なポイントになります。

10周年の記念事業は、今までの活動を振り返り、今後のJC運動の方向を確認するうえで最も大切な事業であります。私達の運動は、美馬の新しいコミュニティの実現のための試みです。

1. 積極的に地域づくりに参加し、事業の展開を図る。

1. 10周年記念事業の具体的準備にとりかかる。

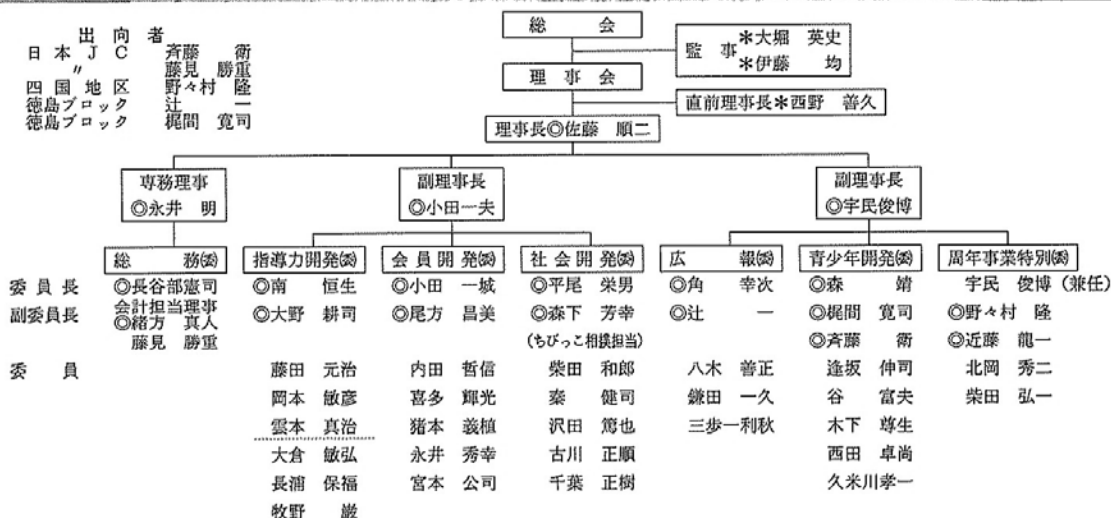
1. 例会の活性化を図る。

最後に会員諸兄の御協力を心より御願ひ申し上げ、所信とします。

夢

1990

F R A M E S H O T



1990年度組織図

◎印は理事長、*印はその他の役員。各委員会最上段は委員長、総務以外の2~3段目は福委員長、指導力の破線より下は90年度新入会員(理事会承認済み)

We are the River Family

国際問題評論家

平島祥男

国際卓球連盟広報委員
国際報道写真家
平島祥男

1936年東京生まれ。都立西高、中央大学を経て、1963年エジプト・アレキサンドリア大学に留学後、国際問題評論家、国際報道写真家として世界各地を取材。中東戦争パレスチナ・コマンド最前線や聖地メッカ・メディナの世界初の完全取材に成功。友好貢献により1972年ファイサル・サウジアラビア国王最高勲功賞、アブダラー殿下同国民防衛軍長官勲功賞を受ける。ほかに朝日新聞社創立記念論文最高賞、ギャラクシー選奨（記録映画「アラブ縦断」）などを受賞。著書に『世界の聖域—メッカ・メディナ』『The Road to Holy MECCA』など。

おめでとうございます！美馬J Cがこのたび創立10周年をむかえられたことは、将来50周年・100周年と続くであろう記念年のまず最初のひと節を印されたことであり、まことに意義深いことであると喜び申し上げます。

たまたま私こと、今回の「川のフォーラム」等の記念プログラムの特別コーディネーターやブログとしての「世界の河川と民俗の興亡」についてのお話を致す役割を、図らずもお引受けすることになりました。それは、こんな少々因縁めいたエピソードのゆえかとも存じ、おお世話だったお役目をできる限り力いっぱいいつとめさせていただこうと思っております。

一昨年末のことです。東京でのある会合での出会いから、私は美馬J Cのメンバーや阿波・吉野川筋ゆかりの方々と、親しくおつき合いさせていただくことになりました。

実は、私自身第2次大戦中から戦後にかけて、小・中学校時代の10年近くを、母の郷里のその名も「大和・吉野川」のほとりの下市で過ごした思い出を申し上げたことがきっかけで、お互いに一層の親密感を覚えたのかもしれない。

そして、私は生まれて初めての四国への旅の第1歩で、「美馬・吉野川」の貞光から一字への山道を辿ったのです。赤・黄・ベージュの紅葉の山々のたたずまい、それはまさに、私の幼き日の吉野の山々の残像そのものでした。妙になつかしく、ノスタルジックな異次元の世界への歩み—祖母や母の50年も昔のささやき（「大きくなったら、必ず必ず八十八ヶ所参りをするのですよ。まず鳴門の靈山寺へお参りして、吉野川をさかのぼりながら路筋のお寺お寺へ向かって…」）が、ひととき大きくよみがえってきました。（のちに、専門家の話では、10年以上前には四国と紀伊半島は一体だったが、黒潮の浸食・地盤の隆起陥没で現在の地勢になったので、土質・植生が酷似しているのは当然とか）

このような中から、昨春の貞光町当局のご尽力による、四国初の「日本卓球協会ナショナルチーム合宿トレーニング」や、川筋ヤングたちと東京から駆けつけた多くの友人たちによる「四国三郎ルネッサンス」の集い（徳島グランドホテル会場）がアツという間に実現しました。

何え、その後もこれらの経験を生かしながら、今春には「貞光・寅さん映画祭」でJR寅さん特別列車運行さえも大成させ、今秋には、山田洋次監督新作の日本最初の公開計画等、まこと「聖山・剣」を駆けおりの吉野の清流からほとぼり出る「美馬新時代の乱」の鮮烈なエネルギーを感じずにはおられません。

ここで特筆すべきは、上記イベントへの行政当局の心配りはもちろんのことながら、各行事での商工会青年部・婦人部等の地元ヤングパワーの並々ならぬご努力を、大いにバックアップした美馬J Cメンバー各位のボランティア活動が存在したことであります。

河川の大いなる流れは、私たち人類の歴史を数百万年前の太古よりはぐくみ、時には怒りの奔流で一瞬にしてすべてを空にしてきました。ティグリス・ユーフラテス、ナイル、ライン、ドナウ、セース、ガンジスそして黄河。過去30年間にわたり、私は国際ジャーナリストとして、これら世界の河川と共に生きる人々の暮らしのさまざまなをカバーするチャンスにめぐまれてきました。

21世紀を目前に、いま確かにいえることは、いかに文明が発達し、地の底、海の底、果ては宇宙の彼方にまで、生活の場が広がろうと、私たち人類は永遠に川を離れては生きて行けないという厳然たる事実です。

今日ここに、わが国の「太郎・次郎・三郎」の大川に、各吉野川代表の皆様が一堂に会することは、初の顔合わせで短時間にせよ、近い将来の肝胆相照らし、喜怒哀楽を共有し合える真の「リバー・ファミリー」結成への最初の歴史的きっかけであろうと確信致しております。

処は確か、「四国三郎」のひとり。こここそ、1200年の昔日、日本史最初の「地域おこし」の名プロデューサー兼コーディネーターであった、あの弘法大師が歩まれた故地でもあります。

川の流れに寄せて、いま全国からつどった私たちの行く手は、はるかにはるかに遠いものでありましょう。

しかし、今日を機に、私たちの友情の流れは絶えることなく、新しき世紀の後なる世代へと流れ続けて行くことでありましょう。

終わりにもういちど、おめでとうございます！

We are the River Family

衆議院議員

前田武志

美馬J C十周年心からお祝い申し上げます。

私の郷里奈良県には、あの「太平記」の舞台一桜の吉野山のふもとを流れる吉野川（紀ノ川）があります。

私事ながら、祖父も叔父も、この類まれなる清流をいつまでも清流たらしめるべく、また何十年かに一度は激しい牙をむく激流を鎮め、流域の人々が、吉野川に親しみつつ、日々の暮らし安らげくとお願いいたしつつ、私までいわばファミリー三代にわたる「大和・吉野川」代表の一員として、戦前から現在まで数十年間にわたり、国会議員として、国政に参加させていただいております。かような環境の中で、私自身も、少年時代より川に親しみ、夏はまっ黒になって吉野川で泳いで育ちました。その川好きがこうじて、京都大学で河川工学を専攻いたしました。

卒業後建設省へ入省し、河川局での仕事を主に担当し、皆様のご郷里四国四県を横断する吉野川を始め、利根川や、私の郷里の吉野川ほか、全国の大小多くの河川を、行政の面から調査・研究いたす機会を持ちました。

のちに出向した外務省でも、あのベトナム戦争末期のサイゴン（現ホーチミン）で一等書記官として、メコン川デルタをめぐる同胞あい食む血みどろの悲劇のただなかにありました。

また領事として参ったソドニーは、広大な豪大陸の中でも名高い良港でありながら、大分水嶺山脈を背に川らしい川とてなく、「もし清流の一本でも流れていればこの世の天国」などという現地の人々のつぶやきも耳にいたしました。

つい先日行われた奈良・吉野J C二十周年記念式典でお会した皆様の美馬J C代表の方々にかがえば、この度の十周年を機に、全国の吉野川流域の代表者を招いての「吉野川サミット」をはじめ、色々なフォーラムを開催されるとのこと。「自然を大切に！」との全地球的な叫びの轟く中でこのような催しは、時宜を得たすばらしい企画であります。望むらくは、この有意義な集いをただ一回限りのものとするのではなく、全国の河川流域の人々の末長い心あたままる交流を通して「うるわしの祖国ニッポン」をいつまでも後の世代に伝えて行く、国民的運動のいしずえの確かな一石となるよう切望いたします。

先に申し上げたように「吉野川」と密着した人生を過ごし、同僚国会議員の中でも「こと河川に関しては」と、いささかの自負もある私としましては、今回の集いに同じ仲間として参加させていただきたい気持ちでいっぱいあります。しかしまことに残念ながら、当日、先に予定されている大きな会合があり、おうかがいできないことはかえすがえす口惜しい限りです。

ただ近い将来、かつての私の河川局職員としての仕事場でもあった御地吉野川原で、美馬J Cほかの皆様方と、親しくお目にかかれる機会を大いに期待しつつ、この度の皆様ご苦心の多彩な記念プログラムのご成功を祈って、お祝いの言葉とさせていただきます。



『美馬の過去・現在・未来』

大地の形成

美馬郡は西南日本を内帯と外帯に分ける中央構造線の真上に位置している。その中央部を吉野川が流れているが、これはフィリピン海プレートがユーラシアプレートの下にぐりぐり込む大地帯に沿って東流している事で、このぐりぐり込む圧力によって造山運動が起こり、北岸に阿讃山脈（7,000万～9,000万年前の地層）と、南岸に四国山地（3億6,000万年～2億4,000万年前の地層）が形成された。簡単にいうと、かつてフィリピン付近の海底であった半田町、貞光町、穴吹町がはるばる地殻変動によって移動させられ、3億年以上かかって美馬町、脇町にくっついたということであり、さらには太平洋であった地域が圧縮されて吉野川となっているのである。何とも雄大な地球のロマンによってこの美馬郡は形成されたのである。

美馬郡の成立

5～6世紀頃、日本各地は豪族によって支配され、その権力の象徴として数多くの古墳が造られている。徳島県には粟の国（岩津より下流の吉野川一帯）と長の国（那賀・海部郡一帯）の二国があって、国造によって治められていた。しかし古記録には出てこないが、岩津より上流の美馬郡一帯は、美馬町郡里地区を中心とした強大な権力を有する豪族が存在したことは確実である。国史跡の段の塚穴（直径37m・高さ10mの円墳）は四国一の規模であり、すぐ近くには多くの古墳群もある。また同じく国史跡の郡里鹿寺は昭和42・43年に学術的な発掘調査が行われ、東西94m、南北120mに広がる寺域と、塔、金堂、講堂、僧房、南大門、中門跡が発見され、また古瓦、須恵器、土師器が多数出土した。これから検討して白鳳時代（70後半～80初頃）に創建された徳島県最古の法起寺式の七堂伽藍を備えた大寺院であったことが確認されている。これらから推察すると岩津より上流の池田までの吉野川一帯は『美馬の国』ともいふべき古代国家が存在した可能性が近年強まっている。また、何故美馬郡と命名したかは定かでないが、古代より牧場があり良馬の産地であったという説と、吉野川の両岸の一帯なので、水間と書き、それが美馬の字に転化したという説がある。どちらにしても大化の改新（645年）以前から美馬郡があったことは確実である。また三好郡については、日本三代実録巻四、貞観二年（860年）三月の記事に「美馬郡を分割して三好郡を設置する」という部分があるので、それ以前は現在の美馬郡、三好郡を合わせた地域をすべて美馬郡と呼んでいたと思われる。

忌部氏の開拓

徳島県は神武天皇の頃から忌部氏によって開拓されたといわれている。大同二年（807）に齊部広成が著した古語拾遺のなかに「天日鷲命の孫は木綿及麻及織布を造る。仍れ天富命をして、日鷲命の孫を率て、肥饒地を求めて、阿波国に遣して、穀、麻の種を植えしめき。其裔、今彼の国にあり。」とある。天日鷲命は、「古事記」の天岩戸開きにも登場する神で、その父は天手力男命とされているし、他にも忌部氏の一族と思われる人物が数人登場している。忌部氏は中臣氏と共に皇室の神事を司る神官であり、また日本で初めて、織物、製紙、製鉄、玉造り、鏡造り、刀造り等を創始した技術集団を統率する部族でもあった。その本拠地が徳島県西部の吉野川南岸の山間地帯にあったことは、ほぼ間違いのない。その証拠に、現在でも日鷲命

の直系とされる木屋平の三木家より、歴代の天皇の即位式である大嘗祭には籠布、木綿が貢進されている。また天日鷲命を祭神とする延喜式官幣大社忌部神社の所在地も、貞光町端山吉良と山川町山崎の忌部神社の間で争われたが、両方とも忌部氏の勢力圏内にあり、すでに千数百年前より両方とも存在していた可能性がある」と研究者は指摘している。さらに穴吹町古宮の石尾神社には東西80m、南北120m、高さ30mの巨岩に三方を囲まれ、低地に向かう一面に緑泥片岩の板状立石が50mにわたって並んでいる。これは古代祭祀遺跡である「磐座」や「磐境」と考えられる。また白人神社の奥社である神明神社にも、幅1.5～2m、高さ1.2～1.8m、東西22m、南北7mという石で積んだだけの社殿がある。これも古代の磐境が現存するものと考えられ、全国的にも県内に数々所あるのみで非常に貴重なものである。さらに一字村法正にある天磐戸も学術調査はなされていないがこれらと同様の祭祀遺跡と思われる。これ以外にも近年の開発や、中世の戦乱で破壊されたものも数多くあるようで、全体像がはっきりすれば古代忌部氏の発祥地としての美馬郡の性格が理解できるであろう。



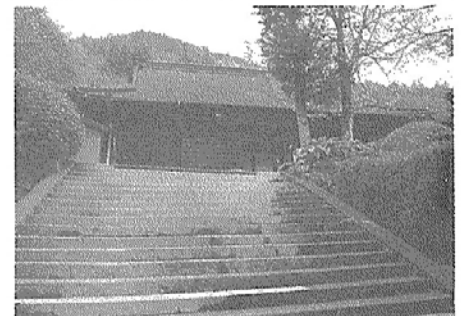
南北朝時代と美馬

元弘三年（1333）後醍醐天皇、護良親王、楠木正成、足利尊氏、新田義貞らの反幕府勢力により北条高時以下の北条一族が滅ぼされ、鎌倉幕府は終焉する。翌年、後醍醐天皇は天皇親政の理想を実現しようと建武の新政を行った。しかしこの政策は武士にとって不満を招き、政治に不慣れた天皇や公家の政務は停滞し社会的混乱を引き起こした。この機に乗じて新たな武家政権を立ち立てようとしたのが足利尊氏であった。戦いは建武二年（1335年）に始まり、一時尊氏は敗退して九州に逃れたが、その途中四国へ足利氏一門の細川和氏、顯氏、定禪らを遣わした。彼らは阿波国に秋月城を築き、四国経営の本拠とした。吉野川流域の経済力、そして京都の近くにありながら、海を隔てている為には防衛も可能な阿波を重視した。尊氏は建武三年（1336年）に態勢を立て直し九州から東上、京都を制圧して光明天皇を即位させた。しかし後醍醐天皇は三種の神器を持って奈良の吉野に逃れ、以後約六十年間にわたって吉野の朝廷（南朝）と京都の朝廷（北朝）という二人の天皇が存在する異様な事態が起こることとなる。細川氏は吉野川一帯の平野部の武士団を北朝方として掌握したが、剣山周辺の神山、木屋平、穴吹、端山、半田、一字、重清、祖谷の武士団はこれに抵抗した。これを山岳武士と称している。南朝方と山岳武士との連絡は修験者（山伏）が行った。誓の繪旨といって天皇からの命令は、たぶさに隠して運ばれたのであるが、木屋平や貞光にはこれが現存している。

南朝方の中心人物であった楠正成は延元元年（1336年）湊川で戦死、新田義貞も延元三年（1338年）越前で戦死し勢力は次第に衰えていった。さらに延元四年（1339年）八月十六日後醍醐天皇は「玉骨はたとひ南山の苔に埋もるとも、魂魄は常に北闕の天を望まんとする」と最後の言葉を残して崩御された。その後三代の天皇が即位するが、ついに明徳三年（1392年）南北朝は合体し内乱は終息する。この間に新田氏の一族は相当数が四国に渡ったものと思われ、新田神社の数は四国に八五社あり、そのうち徳島県には四七社、さらに美馬郡内には二九社を数え、それは国内で最も多いものである。貞光町端山では新田義貞の甥の脇屋義治が再起を誓って逃げのび、応永二年（1419年）に九六才で卒している。以後その墓所を新田大明神として祭っている。これ以降当地は細川氏、三好氏の支配が確立するが、特に十六世紀中頃三好長慶の時代には畿内を制圧して天下人としての地位を確立するのであるが、そのルーツは三好・美馬地区にあるのである。また同じ頃武田信玄の異母弟である武田信頭が脇城の時代となり、三好氏に協力している。

稲田氏と幕末

豊臣秀吉の四国征伐によって功のあった蜂須賀家政は天正十三年（1585年）阿波国十七万五千石を与えられた。同時に蜂須賀家の重臣であった稲田植元は西阿の中心であった脇城主として五百名の家臣と共に入来した。それ以降戦乱によって荒れていた脇町を修復し、人々も各地から集住し月に六度の市が開かれるまでになっていく。植元は八五才で没し貞真寺に葬られた。二代示植は元和元年（1615年）淡路の仕置となり洲本に移り所領一万四千石余りとなる。一国一城令により寛永十五年（1638年）脇城が廃城となるが、猪尻に邸を設け家宰を置いて采地の支配を行った。猪尻武士団は天保三年（1832年）には二七二名を数えている。時は移り、明治三年（1870年）庚午の年五月、徳島藩士と稲田家（第一家老）家臣との間に起きた暴動を庚午事変（稲田騒動）という。当時稲田家の石高は実取では三万石余り、その家臣団は三千人を越え、大名格の実力を持っていた。しかし本藩士に対し、マタモノ家来といわれる陪臣身分であり反骨精神を常に持っていた。また当時の藩主斉裕は徳川十一代將軍家斉の子であり、一方稲田家には高辻待従（公家）の娘が嫁いでおり勤王方に近い関係にあった。こうした両者の反目は明治二年（1868年）の薩藩置県によって一層激しいものとなった。稲田家の石高はわずか千石に減じられ、その家臣の生活を支えられなくなる為に分藩運動が起こったのである。この行動を激怒した徳島藩士が、洲本において稲田邸及び家臣の住居を焼き討ちし、一方猪尻を襲撃するため徳島を進発するなどの事件が発生した。この結果主謀者の徳島藩士十名が切腹、稲田



家と家臣一同約二千七百名は、北海道静内郡志古丹島へ移住が命ぜられた。この時の切腹は公的には日本で最後のものではなかった。

この後遺症はその後も続き、明治九年には淡路島が兵庫県に編入され、徳島県も高知県に合併される始末であり、明治十三年になってようやく徳島県が復活するのである。

このような幕末の動乱期には全国でも多くの人物が輩出されているが、当地において注目すべき人物をあげてみたい。竹沢寛三郎は文政十二年（1829年）脇野原の生れであるが、青年期に漢学、国学を修め武芸にも通じていた。諸国を巡歴して勤皇報國を唱道し、淡路に砲台を建設するよう幕府に上申している。慶応三年（1867年）神祇官御用掛を命ぜられ、明治元年東征する官軍に従い勲功をあげ、飛騨国取締に命ぜられる。つまり初代の岐阜県知事となっているのである。彼は住民サイドに立った善政を布いたのであるが、それが逆に政府の政策と対立することとなり数ヶ月にして解任されてしまう。しかし現在でも高山付近の住民は彼の業績を評価し、語り伝えているということである。政界を去った竹沢はその後新田邦光と名前を変えて明治八年、神道修成派を創立した。これは神道と儒教を折衷したものであり、当地においても神官や庄屋クラスの人々が教化を受けている。貞光村一五九番屋敷（現高来助役宅）で天保五年（1834年）に生れた井出三洋は代々医家の家系で、江戸に上り藩邸において医員として迎えられていた伊藤玄朴の門に入り、医学と蘭学を学んだ。玄朴はシーボルトの高弟として知られた人物である。さらに長崎に出て、佐野常民と共に洋学の研究を進めている。慶応元年（1865年）藩が徳島城下寺島巽浜に洋学校を設置した時教授となっている。明治元年藩が米國から軍艦「戊辰丸」を購入すると、三洋は艦長に任ぜられている。この頃幕府の残党である榎本謙次郎（武揚）らは軍艦八隻をもって北海道五稜廓に逃れ、函館の各国公使に依頼して、徳川家をもって北海道を独立国家として認めさせようとしたのである。しかし明治政府は聞き入れず同年三月討伐のため甲鉄、春日、戊辰丸八隻を北上させた。一方南下してきた榎本艦隊は台風のためめりぢりとなり回天だけが官軍と宮古港で遭遇し戦闘となる。この際敵弾を受けて大破した戊辰丸は艦隊を離脱し品川まで退いたのであるが、これが戦線を離脱した行為と見なされ、乗組員には切腹、禁固、追放などの刑が処せられた。艦長であった三洋は責任を問われたが、医師でもあったため追放だけの処分にとどまった。後に小山譲と姓名を変えて官途についたり、実業界に転身しようとしたが思うに任せず、不遇の晩年を徳島で送り明治四十一年七十三才で生涯を閉じた。岡本監輔（章庵）は天保十年（1839年）穴吹の三谷村に生まれた。二十四才の時単身樺太に渡り、二十七才の時には幕府の許可を得てカラフト全土の調査を行っている。この際に東北端のカオト岬に「日本領 岡本文平建之」の標柱を建てている。その後、坂本竜馬、大久保利通、岩倉具視などの人々に会い北方開拓の意義を説いている。三十才から開拓事業に着手するが思うに任せず三十三才で引揚げている。三十六才の時陸軍省参謀局員となり中国に渡り各地を旅行している。奉天に入った最初の日本人であった。その後東京大学予備門教諭や徳島県尋常中学校校長などを歴任している。異常最だった人

物をあげてみたが、それ以外にも有能な人物は多数輩出している。さらに教育面においては江戸時代末期半田町の根心舎が特筆すべきものとしてあげられる。石田梅岩の石門心学の流れをくみ、商家や庄屋クラスの人々が私財を投じて運営していたものであり県下には二ヶ所しかなかった。当時の人々の勉学に対する熱意がくみとれるものである。美馬郡の過去についていろいろ述べてきたが、大切なことは過去の姿を性格に把握すればする程、現在や未来の姿もしっかりと理解し予見することができるということである。何故ならば、時間というものは過去、現在、未来を貫くひとつのエネルギーの集合体なのであり、人間の存在自体もその一部分に過ぎないからである。



現在の美馬

徳島県下において美馬郡ほどその活動において注目を集めている地域はないと思う。美馬町では昭和五十八年竜王山開発期成同盟会が組織され数々の提言が行われた。その結果三頭山山頂にハングライダーサイトが造られ、昭和六十一年には日本選手権が開催された。また昭和六十三年にモトクロス用のコースが造成され平成元年からは全日本選手権が開催されて多くの観客が訪れている。さらに本年八月にはハートエントデュロー四国グランプリも予定されている。貞光町の境である吉野川河川敷では全日本トライアルも何度か開催されて、若者の屋外スポーツのメッカとして着々と整備されている。また本年六月には自治省の地域づくり推進事業として寺町周辺整備事業が指定され、前出の国史跡郡里廃寺を中心とする歴史文化を核とした整備事業に着手する。脇野原ではうだつの街並みが文化庁の伝建指定地区となり、年々修復、保存事業が行われ、ソフト事業としてはうだつの城下祭りも毎夏行われている。さらに町立図書館や小中学校の建築にもうだつが取り入れられ「うだつの上がる」町としてのイメージが全国的に定着しつつある。穴吹町ではイカダ下りレースが毎夏行われ、様々な企画によって人々の目を楽しませている。四国カントリークラブや国民年金保養センターもあり、リゾート感覚の町といえるだろう。貞光町では本年一月にふるさと探偵団が結成され、四月には山田洋次映画祭が開催された。昭和七年建築の木造である貞光劇場や全国的にも珍しい二段式のうだつのある商店街、二百年以上前に建てられた庄屋敷などがその舞台となった。さらに映画祭の企画に感動した山田監督は、新作の「息子」の上映を全国に先がけてこの貞光劇場で行おうと計画している。

尚、重層うだつを中心とした街並み調査も朝日トラストによって本年度より開始される。半田町では毎年、地場産業であるそうめんを使って「そうめん祭り」が行われている。そうめん流しや、早食い競争など夏の風物詩として定着している。また近年では柿ワインの製造や漆器の復活なども行われており、特養老人ホームやデイリーサービスセンターの建設と相まって健康と福祉の里のイメージがわいてくる。一字村では青年一擲会が結成され、村のなかで数々の一擲が起こされている。天笠戸を使ったイベントや剣山のロストアークにまつわる伝説の調査などユニークな活動を行うと共に、道路の清掃や他の団体との交流など地道な活動も行っている。木屋平では中尾山高原を中心とする開発が行われ、平成荘、ロッジ、テニスコート、グラススキー場、サフォーク牧場などが整備され、合宿や行楽客が大いに利用している。以上のように美馬郡内の各町村は独自にすばらしい努力をしているが、さらにこれらを有機的に結びつけ、全体としてパワーを発揮すればものすごいインパクトが生まれるに違いない。



未来の美馬

さて、過去と現在にわたってこの美馬郡を見てきたわけであるが、紙面の関係で自然や風土、民俗、産業経済という面では述べられなかったが、どれひとつをとってみても県下や全国に特筆すべきものは多々あるのである。従って未来に向かって我々がイメージを照射するためには、地域全体を統轄するビジョンの作定が不可欠であると思う。この夢に向かって地域の人々が努力する時、美馬の未来への扉は開かれる。今後、縦貫道の完成や国道438号線の竜王山トンネルの開通、剣山貞光線の国道昇格など、ハード面での整備は進むはずである。しかし最も大切なことはそれを利用して自らの発展に結びつけようとする人々の「心の整備」こそが重要な課題といえるだろう。そしてその時、心しておかなければならないことは「地球が滅びてしまつては、何のための人間ぞや？」ということである。

広報委員会委員

斉藤 衛

編
集
後
記

10周年を迎えた本年、広報委員会委員長を
引き受け、記念誌担当を授かった時、
「温故知新」という言葉が浮かびました。
過去10年間の膨大な資料や写真をひもとき、
歴代理事長を初め、諸先輩方から美馬J.Cの歩みを聞き、
その中から私達の知らないものが発見出来ました。
そして、その事により来年以後の自分達が築き上げて行かなければならないであろう、
新しい時代へのキーワードを開く事も出来ました。
あまり得意としないデスクワークですが、
メンバーが一丸となり、それぞれの得意分野を十分に発揮してもらい、
何とか満足の出来るものに仕上がったと思います。
最後になりましたが、ご協力いただきました関係者の方々に感謝の意を表明致しまして、
筆を置く事とさせていただきます。
ありがとうございました。

(株)美馬青年会議所広報委員会委員長

小 田 一 城

広報委員会10周年記念誌編集委員会

編集長 ————— 小 田 一 城
デザイン・レイアウト ——— 牧 野 巖
写真撮映・レイアウト ——— 前 野 光 広
特別寄稿文 ————— 齊 藤 衛
編集委員 ————— 梶 間 寛 司
" ————— 西 原 宏 治
" ————— 久 米 川 孝 一
広報委員会担当副理事長 — 森 靖

(株)美馬青年会議所10周年記念誌

1991年7月5日発行

発行者

社団法人 美馬青年会議所

徳島県美馬郡穴吹町穴吹字岡ノ下1の20(穴吹町商工会内)

T E L (0883) 53-8979

F A X (0883) 52-3293



社団法人
美馬青年会議所